

令和元年度 板橋区区民意識意向調査 報告書概要版

目次

| | | |
|------------|---------------------------------------|----|
| 第1章 | 調査の概要 | 1 |
| 第2章 | 調査結果 | 2 |
| 1. | 属性..... | 2 |
| 2. | 区での住み心地..... | 4 |
| 3. | 「子育て安心」について..... | 9 |
| 4. | 「魅力ある学び支援」について..... | 10 |
| 5. | 「安心の福祉・介護」について..... | 12 |
| 6. | 「豊かな健康長寿社会」について..... | 13 |
| 7. | 「心躍るスポーツ・文化」について..... | 14 |
| 8. | 「光輝く板橋ブランド・産業活力」について..... | 15 |
| 9. | 「緑と環境共生」について..... | 16 |
| 10. | 「万全な備えの安心・安全」について..... | 18 |
| 11. | 「快適で魅力あるまち」について..... | 19 |
| 12. | 「未来創造戦略」について..... | 21 |
| 13. | 「シティプロモーション（区の魅力情報の発信）」について..... | 21 |
| 14. | 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」について..... | 23 |
| 15. | 社会活動・地域活動等..... | 23 |
| 16. | 今後の行政サービスと負担のあり方..... | 26 |
| 17. | 板橋区職員に期待する能力・資質..... | 27 |
| 18. | その他..... | 28 |
| 第3章 | 前回調査との比較 | 31 |

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

区民の住みやすさや定住意向、区への愛着・誇りのほか、区の施策に対する意識・意向などを広く把握し、「板橋区基本計画 2025」でめざしている「東京で一番住みたくなるまち」と評価されるまちに向けての基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査方法と回収状況

- (1) 調査対象者 板橋区に居住する満 18 歳以上の一般区民 3,000 人
(2) 抽出方法 住民基本台帳から層化二段無作為抽出
(5 地域ごとの登録人口規模で 3,000 人を案分抽出)

【地域区分】 5 地域の対象地域は表のとおり

| 地域名 | 対象地域 |
|--------|-------------------------|
| ①板橋地域 | 板橋・熊野・仲宿・仲町・富士見地域センター管内 |
| ②常盤台地域 | 大谷口・常盤台・桜川地域センター管内 |
| ③志村地域 | 清水・志村坂上・中台・前野地域センター管内 |
| ④赤塚地域 | 下赤塚・成増・徳丸地域センター管内 |
| ⑤高島平地域 | 蓮根・舟渡・高島平地域センター管内 |

- (3) 調査方法 郵送で調査票を配布し、郵送による返信またはインターネット上に設置した回答専用 Web ページの入力
(4) 調査期間 令和元年 9 月 6 日（金）～ 9 月 30 日（月）

3. 回収結果

有効回収数 1,144（うち郵送による返信 899、インターネットによる回答 245）
有効回収率 38.1% ※前回（平成 29 年 9 月）調査有効回収率 44.9%

第2章 調査結果

1. 属性

(1) 性別 (問1-ア)

| | 件数 | 構成比 |
|----------------|---------|------------|
| 男性 | 455 | 39.8 % |
| 女性 | 661 | 57.8 |
| 回答しない (無回答) | 5 23 | 0.4 2.0 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(2) 年代 (問1-イ)

| | 件数 | 構成比 |
|--------|-------|-------|
| 10歳代 | 18 | 1.6 % |
| 20歳代 | 112 | 9.8 |
| 30歳代 | 175 | 15.3 |
| 40歳代 | 193 | 16.9 |
| 50歳代 | 212 | 18.5 |
| 60～64歳 | 88 | 7.7 |
| 65～69歳 | 118 | 10.3 |
| 70～74歳 | 96 | 8.4 |
| 75歳以上 | 123 | 10.8 |
| (無回答) | 9 | 0.8 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(3) 居住地域 (問1-ウ)

| | 件数 | 構成比 |
|-----------------------|-------|--------|
| 板橋地域(板橋・熊野・仲宿・仲町・富士見) | 291 | 25.4 % |
| 常盤台地域(大谷口・常盤台・桜川) | 152 | 13.3 |
| 志村地域(清水・志村坂上・中台・前野) | 255 | 22.3 |
| 赤塚地域(下赤塚・成増・徳丸) | 227 | 19.8 |
| 高島平地域(蓮根・舟渡・高島平) | 206 | 18.0 |
| (無回答) | 13 | 1.1 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(4) 国籍 (問1-エ)

| | 件数 | 構成比 |
|-------|-------|--------|
| 日本 | 1,045 | 91.3 % |
| 日本以外 | 22 | 1.9 |
| (無回答) | 77 | 6.7 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(5) 職業 (問1-オ)

| | 件数 | 構成比 |
|-----------|-------|--------|
| 会社員・公務員 | 481 | 42.0 % |
| 自営業・自由業 | 76 | 6.6 |
| 会社役員 | 24 | 2.1 |
| 主婦・主夫 | 157 | 13.7 |
| 学生 | 35 | 3.1 |
| アルバイト・パート | 162 | 14.2 |
| 無職 | 184 | 16.1 |
| その他 | 15 | 1.3 |
| (無回答) | 10 | 0.9 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(6) 世帯構成 (問1-カ)

| | 件数 | 構成比 |
|-------------|-------|--------|
| 単身世帯 | 232 | 20.3 % |
| 夫婦のみ | 274 | 24.0 |
| 二世帯同居(子と同居) | 420 | 36.7 |
| 二世帯同居(親と同居) | 158 | 13.8 |
| 三世帯同居 | 34 | 3.0 |
| その他 | 23 | 2.0 |
| (無回答) | 3 | 0.3 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(7) 同居家族 (問1-キ) (複数回答可)

(問1-カで「単身世帯」以外を回答した方のみ)

| | 件数 | 構成比 |
|-----------|-----|--------|
| 未就学児 | 130 | 14.3 % |
| 小学生 | 104 | 11.4 |
| 中学生 | 60 | 6.6 |
| 65～74歳の家族 | 139 | 15.3 |
| 75歳以上の家族 | 114 | 12.5 |
| 上記以外の家族 | 564 | 62.0 |
| (無回答) | 108 | 11.9 |
| 全 体 | 909 | 100.0 |

(8) 住居形態 (問1-ク)

| | 件数 | 構成比 |
|-----------------------|-------|--------|
| 一戸建(持ち家) | 384 | 33.6 % |
| 一戸建(賃貸) | 23 | 2.0 |
| マンション(持ち家) | 330 | 28.8 |
| マンション・アパート(賃貸) | 292 | 25.5 |
| 都市再生機構・公社住宅・都営住宅・区営住宅 | 76 | 6.6 |
| 社宅・寮・間借り・住込み | 29 | 2.5 |
| その他(ケア付住宅など) | 5 | 0.4 |
| (無回答) | 5 | 0.4 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(9) 居住年数 (問1-ケ)

| | 件数 | 構成比 |
|------------|-------|-------|
| 1年未満 | 46 | 4.0 % |
| 1年以上5年未満 | 137 | 12.0 |
| 5年以上10年未満 | 129 | 11.3 |
| 10年以上20年未満 | 198 | 17.3 |
| 20年以上 | 450 | 39.3 |
| 生まれたときから | 174 | 15.2 |
| (無回答) | 10 | 0.9 |
| 全 体 | 1,144 | 100.0 |

(10) 直前の居住地 (問1-コ)

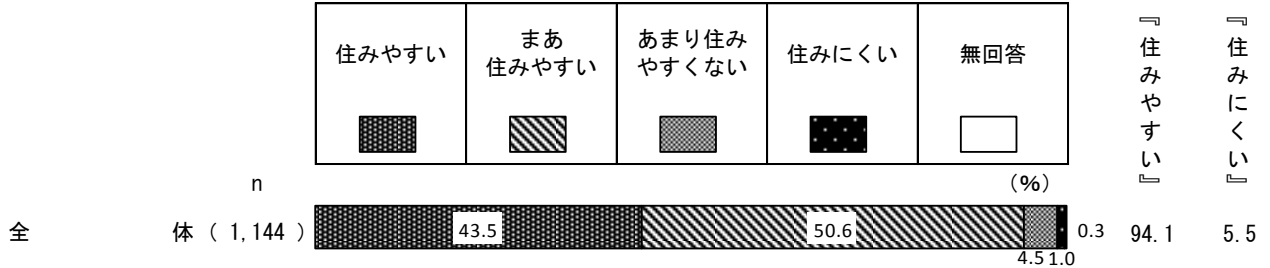
(問1-ケで「生まれたときから」以外を回答した方のみ)

| | 件数 | 構成比 |
|----------------|-----|--------|
| 東京23区内(板橋区を除く) | 408 | 42.5 % |
| 東京都内の他市町村 | 72 | 7.5 |
| 埼玉県内 | 144 | 15.0 |
| 千葉県・神奈川県内 | 96 | 10.0 |
| その他(海外を含む) | 183 | 19.1 |
| (無回答) | 57 | 5.9 |
| 全 体 | 960 | 100.0 |

2. 区での住み心地

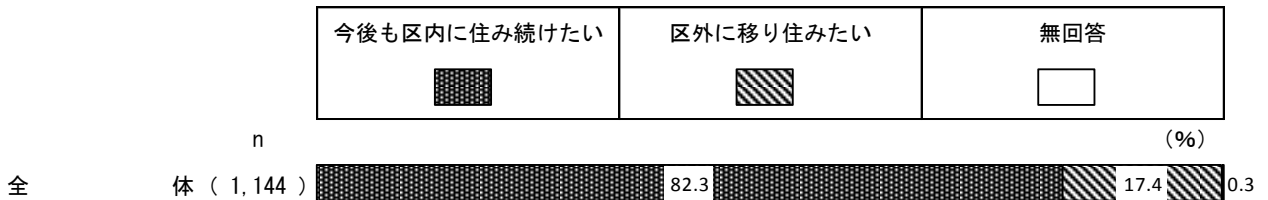
(1) 住みやすさ (問2)

板橋区の住みやすさを聞いたところ、「住みやすい」(43.5%)が4割台となり、これに「まあ住みやすい」(50.6%)を合わせた『住みやすい』(94.1%)が9割を超えています。一方、「あまり住みやすくない」(4.5%)、「住みにくい」(1.0%)を合わせた『住みにくい』(5.5%)は1割未満となっています。



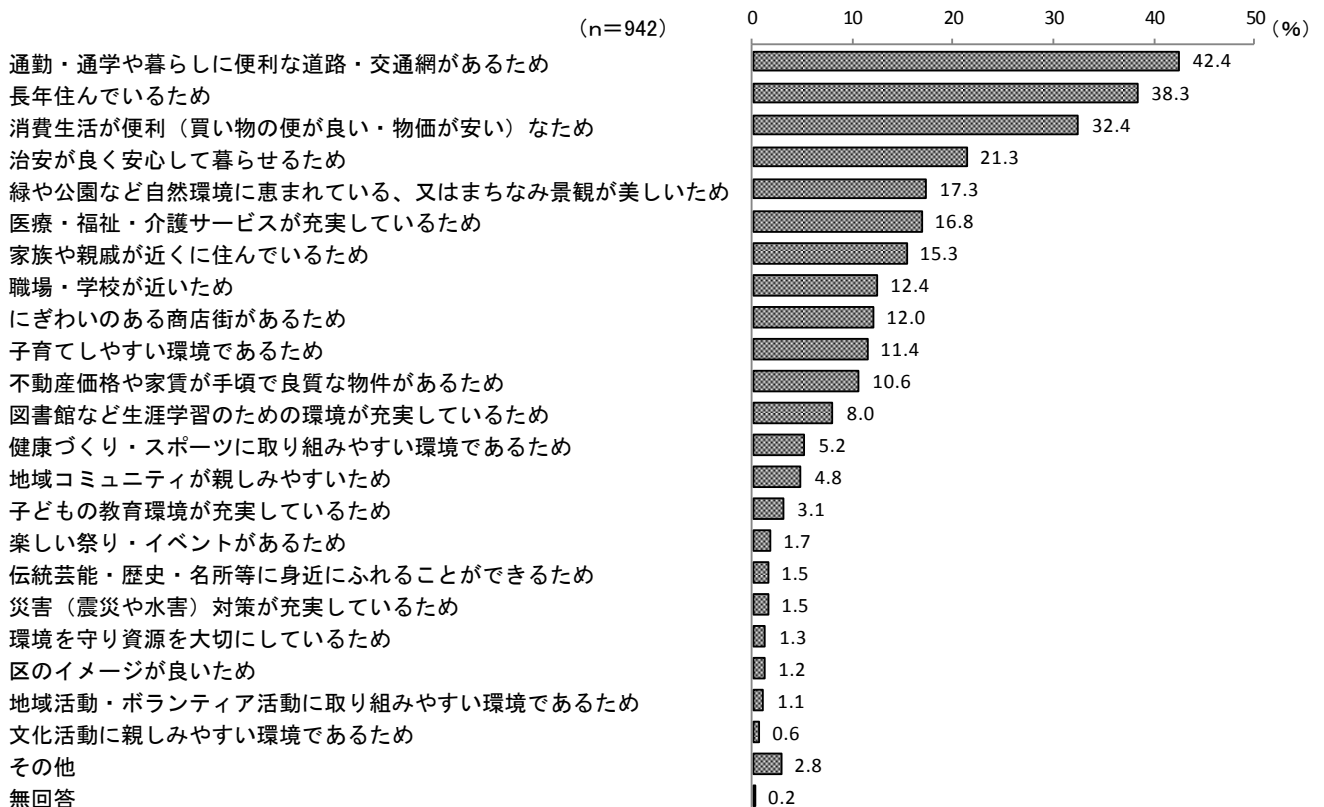
(2) 定住意向 (問3)

板橋区の定住意向を聞いたところ、「今後も区内に住み続けたい」(82.3%)が8割前半、「区外に移り住みたい」(17.4%)が1割後半となっています。



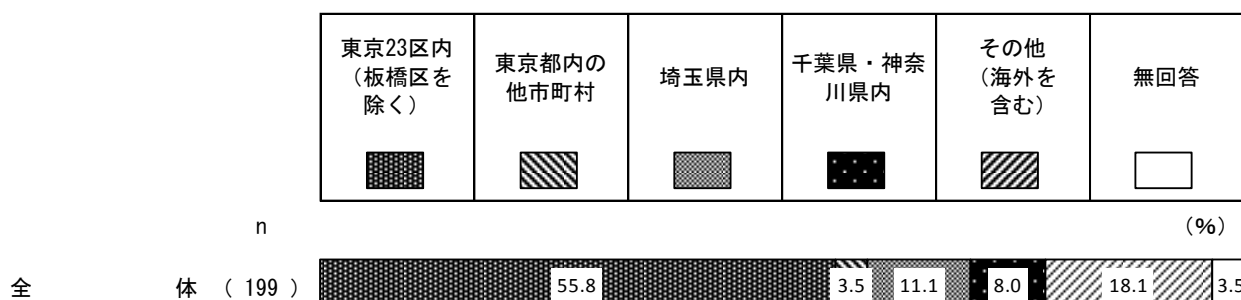
(3) 区内に住み続けたい理由 (問3-1)

問3で「1 今後も区内に住み続けたい」と答えた人(942人)にその理由を3つまで聞いたところ、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」(42.4%)が4割前半で最も高く、次いで「長年住んでいるため」(38.3%)、「消費生活が便利(買い物の便が良い・物価が安い)なため」(32.4%)、「治安が良く安心して暮らせるため」(21.3%)などとなっています。



(4) 区外に移り住むとしたら住みたい地域 (問3-2)

問3で「区外に移り住みたい」と答えた人(199人)に、区外に移り住むとしたら住みたい地域を聞いたところ、「東京都23区内(板橋区を除く)」(55.8%)が5割半ばで最も高く、次いで「埼玉県内」(11.1%)が約1割となっています。「千葉県・神奈川県内」(8.0%)、「東京都内の他の市町村」(3.5%)は1割未満となっています。



(5) 区外に移り住みたい理由 (問3-3)

問3で「区外に移り住みたい」と答えた人(199人)にその理由を3つまで聞いたところ、板橋区より区外の方が、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」(37.2%)が3割後半で最も高く、次いで「緑や公園などの自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」(26.1%)、「にぎわいのある商店街があるため」(17.1%)、「不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため」(16.6%)、「治安が良く安心して暮らせるため」(16.6%)などとなっています。



(6) 住みたい地域（問3-2）と区外に移り住みたい理由（問3-3）

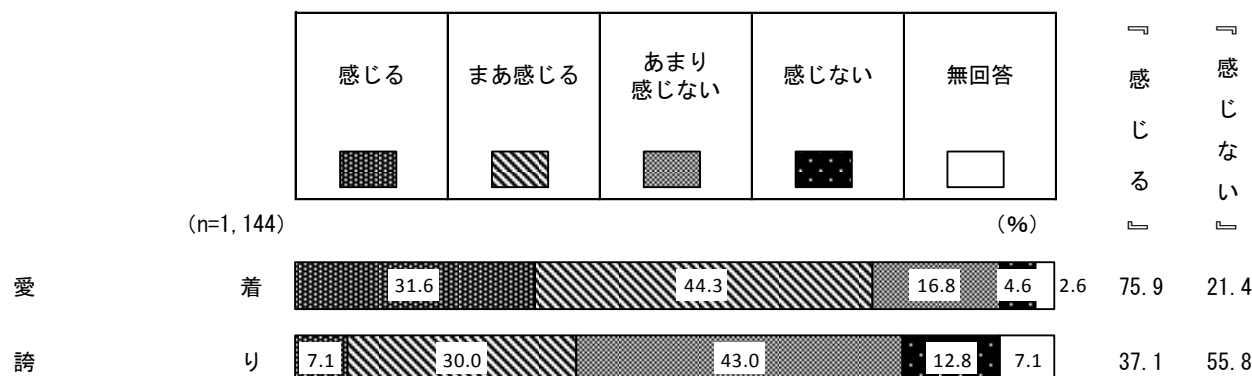
問3で、「区外に移り住みたい」と答えた人（199人）の理由を、区外に移り住むとしたら住みたい地域別でみると、板橋区より区外の方が、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」は東京都23区内（板橋区を除く）（56.8%）で第1位となっています。「緑や公園などの自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」は千葉県・神奈川県内（43.8%）、その他（海外を含む）（36.1%）で第1位となっています。その他の特徴として、「職場・学校が近いため」は東京都23区内（板橋区を除く）（19.8%）で第3位、「イメージが良いため」は東京都23区内（板橋区を除く）（18.9%）で第4位となっています。また、「子育てしやすい環境であるため」、「伝統芸能・歴史・名所等に身近にふれることができるため」はその他（海外を含む）（13.9%）で同率第5位となっています。

| | | n | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|--------------|-----------------|-----|--|--|---|---|---|
| 全 体 | | 199 | 通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため 37.2 | 緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 26.1 | にぎわいのある商店街があるため 17.1 | 不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため／治安が良く安心して暮らせるため 16.6 | |
| 区外に移り住みたい地域別 | 東京都23区内（板橋区を除く） | 111 | 通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため 56.8 | にぎわいのある商店街があるため 22.5 | 職場・学校が近いため 19.8 | イメージが良いため 18.9 | 緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 17.1 |
| | 東京都内の他市区町村 | 7 | 治安が良く安心して暮らせるため 57.1 | 家族や親戚の住居に近い 42.9 | 不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため／緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため／イメージが良い 28.6 | | |
| | 埼玉県内 | 22 | 不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため 40.9 | 緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 36.4 | 通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため 22.7 | 子育てしやすい環境であるため／消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため 18.2 | |
| | 千葉県・神奈川県内 | 16 | 緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 43.8 | 不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため 31.3 | 医療・福祉・介護サービスが充実しているため／消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため／家族や親戚の住居に近い 18.8 | | |
| | その他（海外を含む） | 36 | 緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 36.1 | 家族や親戚の住居に近い 30.6 | 不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため 25.0 | 治安が良く安心して暮らせるため 22.2 | 子育てしやすい環境であるため／伝統芸能・歴史・名所等に身近にふれることができるため 13.9 |

(7) 板橋区に対する愛着と誇り（問4）

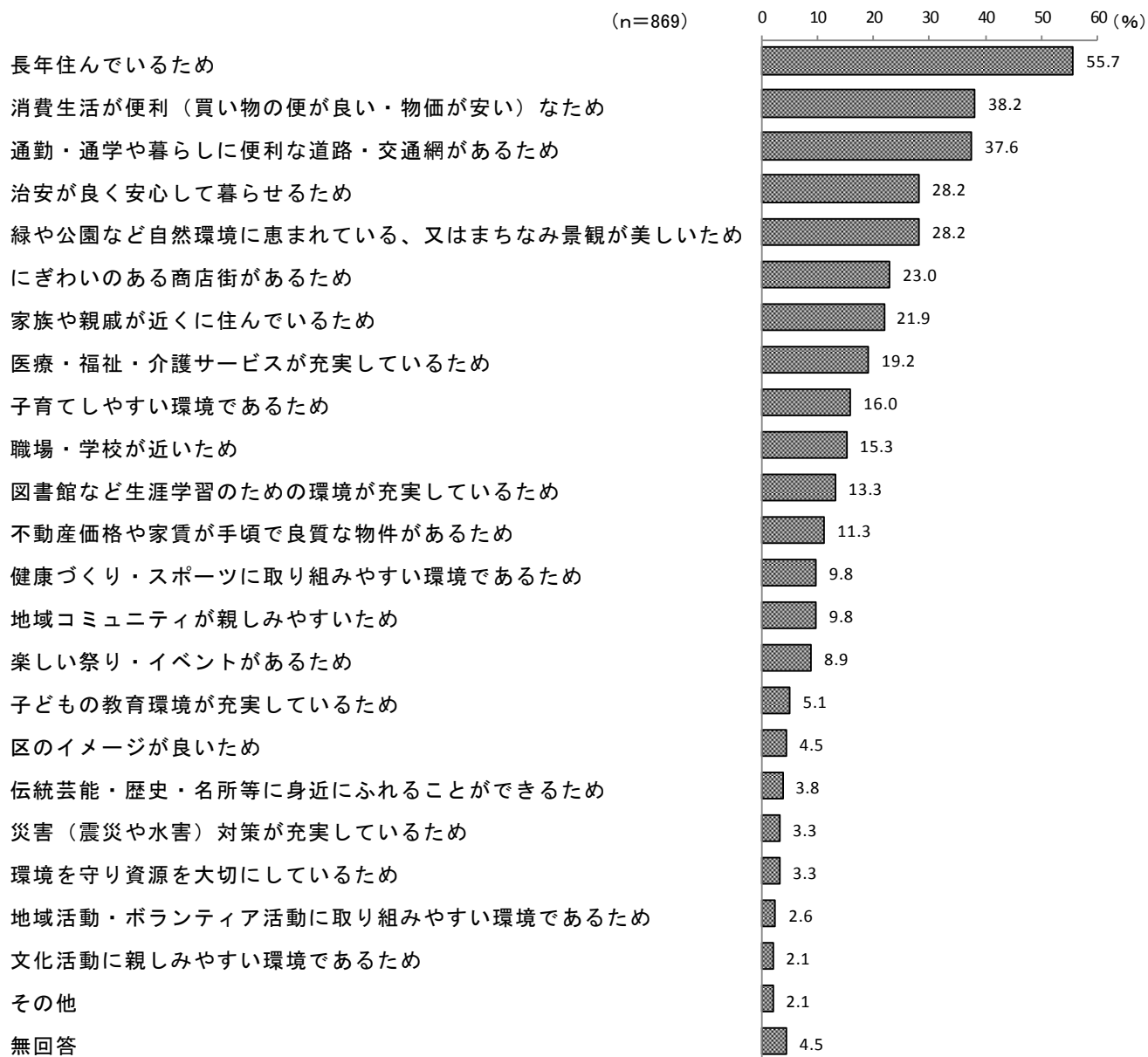
板橋区に「愛着」と「誇り」を感じるかを聞いたところ、愛着を「感じる」（31.6%）が約3割、これに「まあ感じる」（44.3%）を合わせた『感じる』（75.9%）は7割半ばとなっています。一方、「あまり感じない」（16.8%）と「感じない」（4.6%）を合わせた『感じない』（21.4%）は約2割となっています。

また、誇りを「感じる」（7.1%）と「まあ感じる」（30.0%）を合わせた『感じる』（37.1%）は3割後半となっています。一方、「あまり感じない」（43.0%）と「感じない」（12.8%）を合わせた『感じない』（55.8%）が5割半ばとなっています。



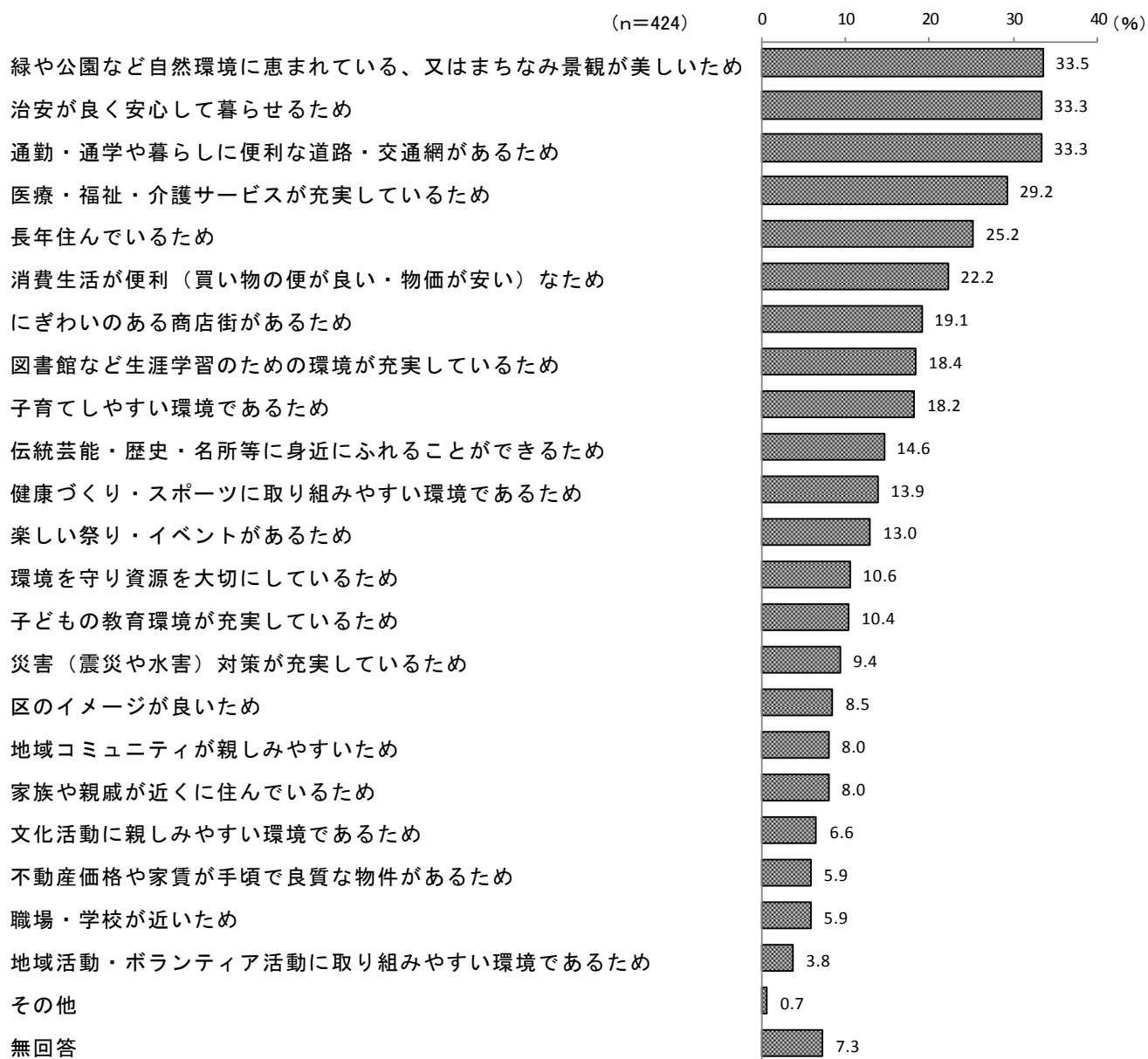
(8) 愛着を感じる理由 (問4-1)

問4で、板橋区に愛着を「感じる」又は「まあ感じる」と答えた人(869人)にその理由を5つまで聞いたところ、「長年住んでいるため」(55.7%)が5割半ばとなっています。次いで「消費生活が便利(買い物の便が良い・物価が安い)なため」(38.2%)、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」(37.6%)、「治安が良く安心して暮らせるため」(28.2%)、「緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」(28.2%)となっています。



(9) 誇りを感じる理由（問4-1）

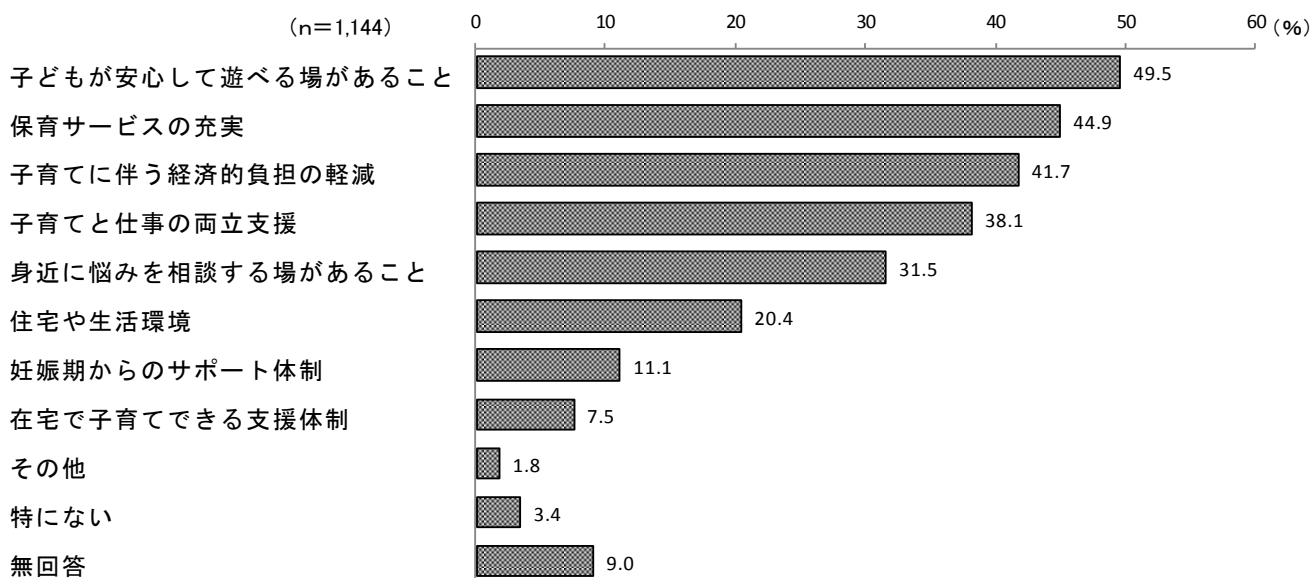
問4で、板橋区に誇りを「感じる」「まあ感じる」と答えた人（424人）にその理由を5つまで聞いたところ、「緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」（33.5%）が3割前半で最も高く、次いで「治安が良く安心して暮らせるため」（33.3%）、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」（33.3%）、「医療・福祉・介護サービスが充実しているため」（29.2%）、「長年住んでいるため」（25.2%）、「消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため」（22.2%）となっています。



3. 「子育て安心」について

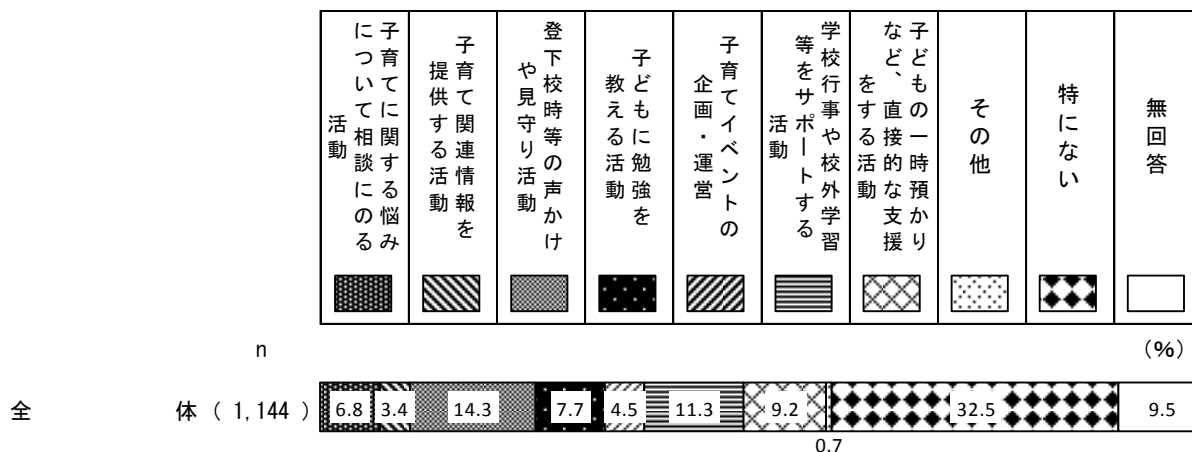
(1) 地域における子育て支援策（問5）

地域において安心して子育てができるために重要だと思うものを3つまで聞いたところ、「子どもが安心して遊べる場があること」(49.5%)が約5割で最も高く、次いで「保育サービスの充実」(44.9%)、「子育てに伴う経済的負担の軽減」(41.7%)、「子育てと仕事の両立支援」(38.1%)、「身近に悩みを相談する場があること」(31.5%)となっています。



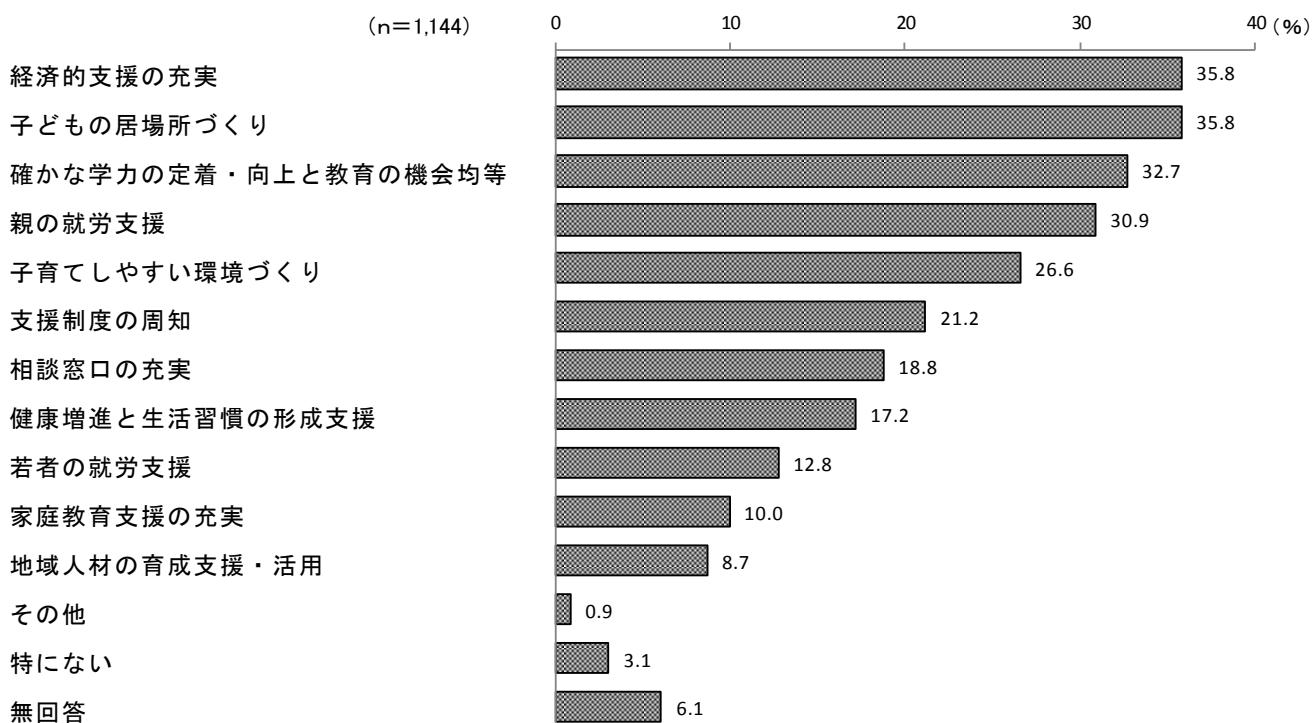
(2) 地域における子育てを支える担い手（問6）

地域における子育てを支える担い手として、参加してみたいと思うものを聞いたところ、「特になし」(32.5%)が3割前半となっています。次いで、「登下校時等の声かけや見守り活動」(14.3%)、「学校行事や校外学習等をサポートする活動」(11.3%)が1割台となっています。



(3) 子どもの貧困対策（問7）

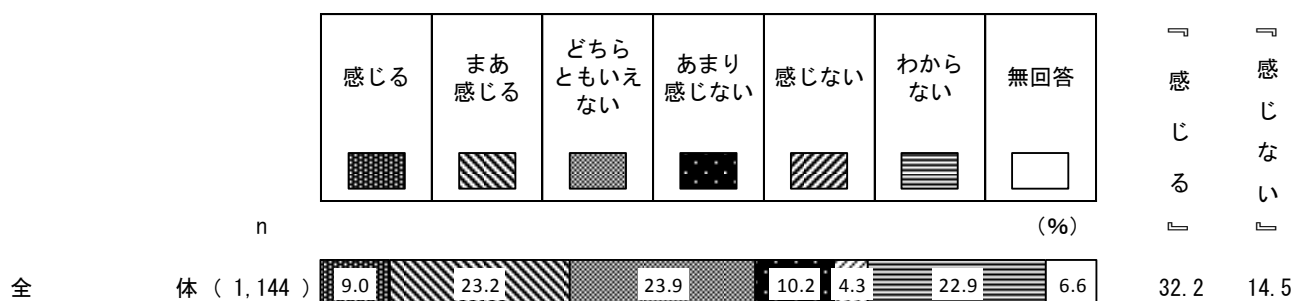
子どもの貧困対策として、重要だと思うものを3つまで聞いたところ、「経済的支援の充実」（35.8%）、「子どもの居場所づくり」（35.8%）が同率で3割半ばとなっています。次いで、「確かな学力の定着・向上と教育の機会均等」（32.7%）、「親の就労支援」（30.9%）、「子育てしやすい環境づくり」（26.6%）、「支援制度の周知」（21.2%）となっています。



4. 「魅力ある学び支援」について

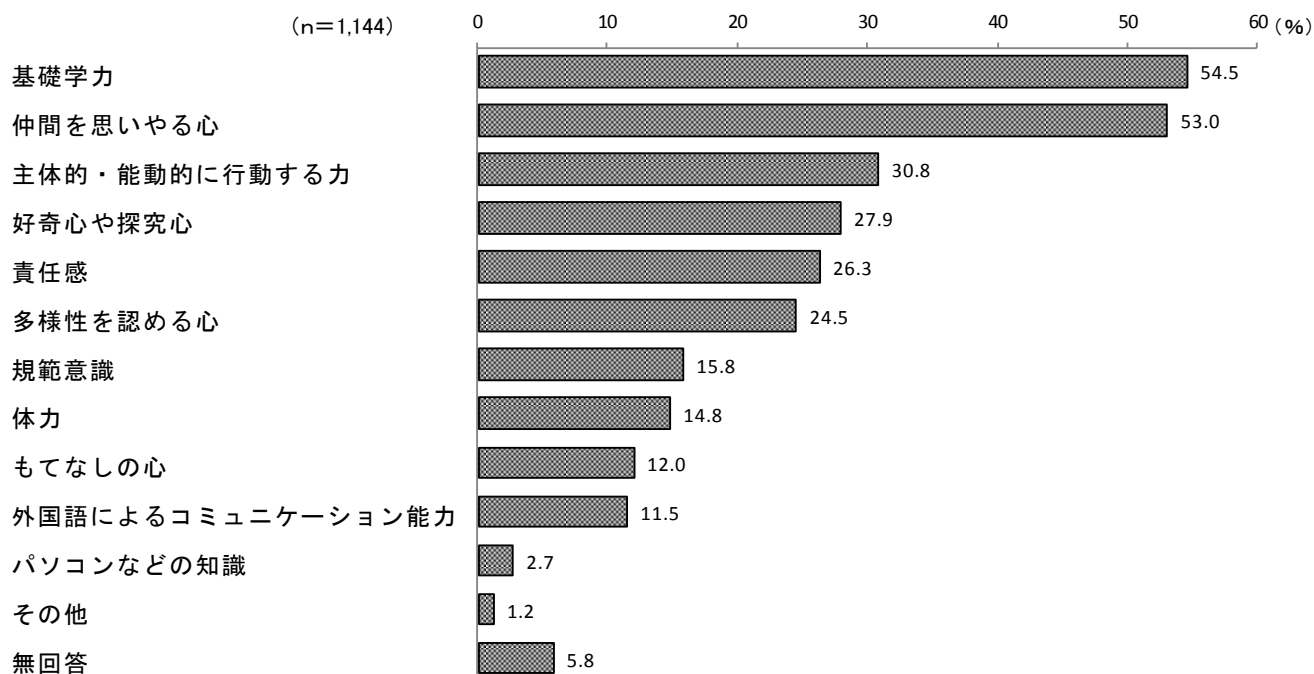
(1) 子どもたちのたくましく生きる力（問8）

子どもたちのたくましく生きる力（学力・心・体）が学校・家庭・地域における教育を通してはぐくまれていると感じるかを聞いたところ、「感じる」（9.0%）が約1割となり、これに「まあ感じる」（23.2%）を合わせた『感じる』（32.2%）は3割前半となっています。一方、「あまり感じない」（10.2%）と「感じない」（4.3%）を合わせた『感じない』（14.5%）は1割半ばとなっています。また、「どちらともいえない」（23.9%）と「わからない」（22.9%）がそれぞれ2割前半となっています。



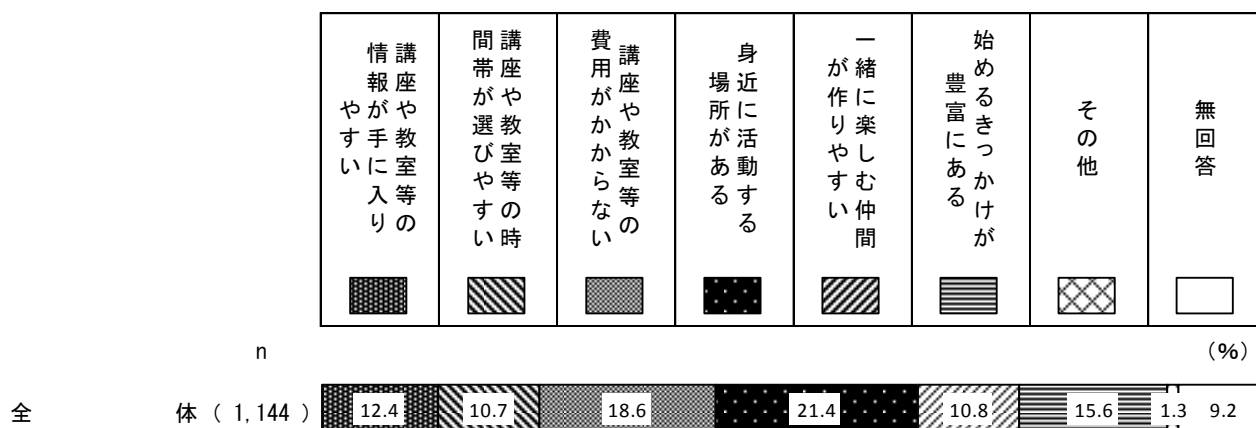
(2) 学校教育を通じて身に付けてほしい力 (問9)

学校教育を通じて、子どもたちに身に付けてほしいと思う力を3つまで聞いたところ、「基礎学力」(54.5%)、「仲間を思いやる心」(53.0%)が5割台となっています。次いで「主体的・能動的に行動する力」(30.8%)が約3割、「好奇心や探求心」(27.9%)、「責任感」(26.3%)、「多様性を認める心」(24.5%)が2割台となっています。



(3) 生涯学習活動に取り組む環境づくり (問10)

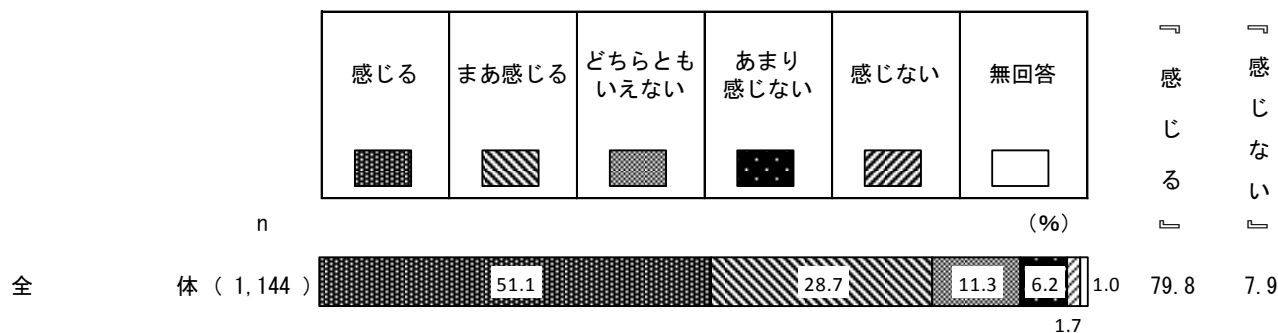
生涯学習活動に取り組むための環境づくりとして、重要だと思うことを聞いたところ、「身近に活動する場所がある」(21.4%)が約2割で最も高くなっています。次いで「講座や教室等の費用が掛からない」(18.6%)、「始めるきっかけが豊富にある」(15.6%)、「講座や教室等の情報が手に入りやすい」(12.4%)となっています。



5. 「安心の福祉・介護」について

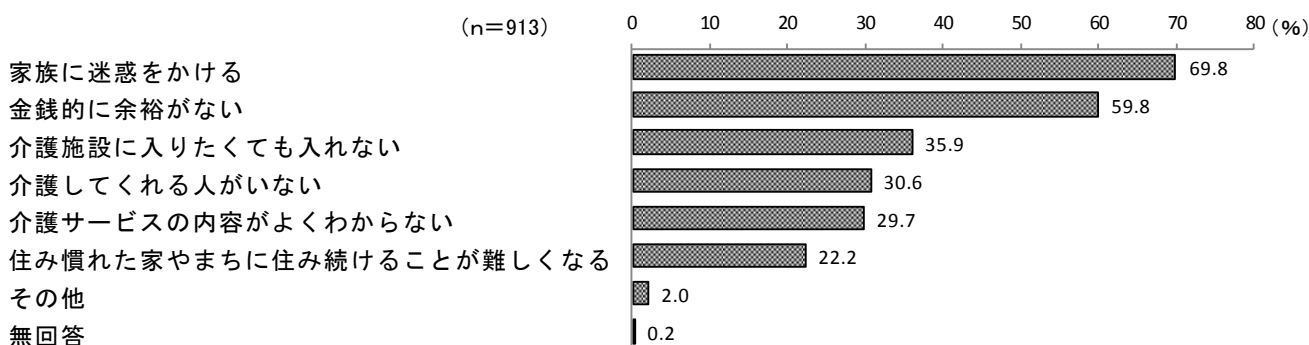
(1) 介護状態になることに対する不安 (問 11)

自分自身が介護を必要とする状態になることに対して、不安を感じるかを聞いたところ、「感じる」(51.1%) が約5割であり、これに「まあ感じる」(28.7%) を合わせた『感じる』(79.8%) が約8割となっています。一方、「あまり感じない」(6.2%) と「感じない」(1.7%) を合わせた『感じない』(7.9%) は1割未満となっています。また、「どちらともいえない」(11.3%) は約1割となっています。



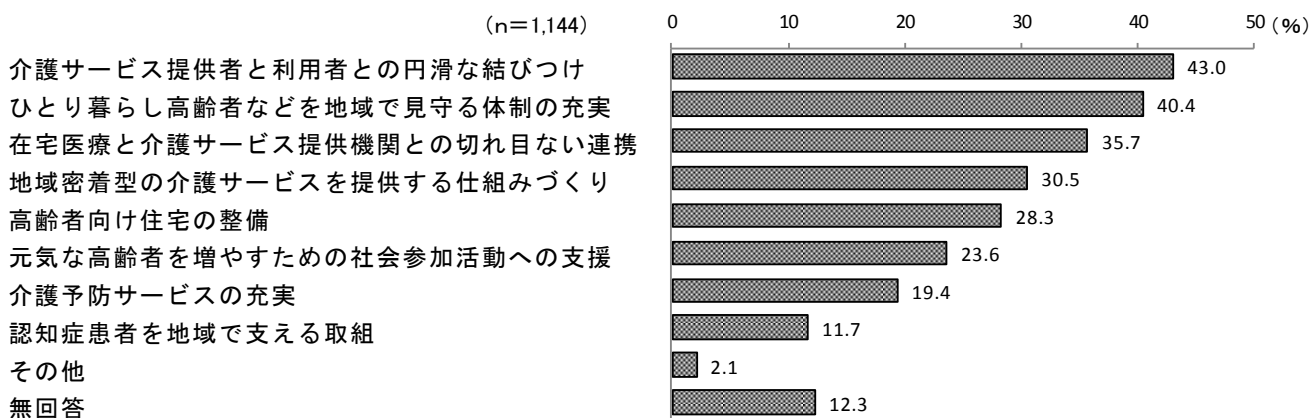
(1-1) 介護状態となることに対する不安の理由 (問 11-1)

介護状態となることに対する不安の理由を選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「家族に迷惑をかける」(69.8%) が約7割となっています。次いで「金銭的に余裕がない」(59.8%) が約6割、「介護施設に入りたくても入れない」(35.9%)、「介護してくれる人がいない」(30.6%) が3割台となっています。



(2) 住み慣れた地域で住み続けるための支援策 (問 12)

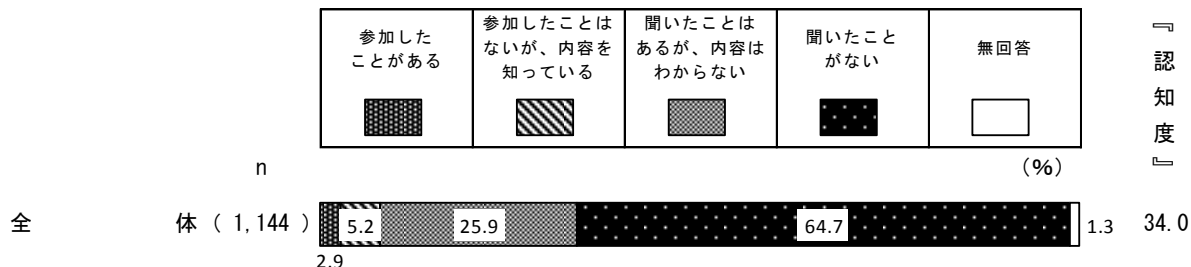
介護や医療が必要になっても住み慣れた地域で住み続けるために、重要だと思うことを3つまで聞いたところ、「介護サービス提供者と利用者との円滑な結びつけ」(43.0%)、「ひとり暮らし高齢者などを地域で見守る体制の充実」(40.4%) が4割台となっています。また、「在宅医療と介護サービス提供機関との切れ目ない連携」(35.7%)、「地域密着型の介護サービスを提供する仕組みづくり」(30.5%) が3割台となっています。



6. 「豊かな健康長寿社会」について

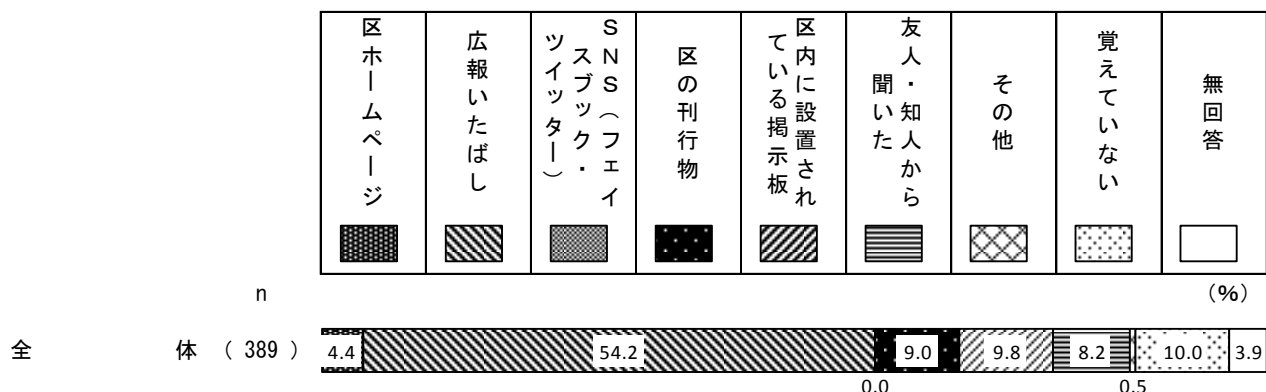
(1) 「いたばし健康づくりプロジェクト」について (問13)

「いたばし健康づくりプロジェクト」について聞いたところ、「聞いたことがない」(64.7%)が6割半ばとなっています。一方、「参加したことがある」(2.9%)、「参加したことはないが、内容を知っている」(5.2%)、「聞いたことはあるが、内容はわからない」(25.9%)を合わせた『認知度』(34.0%)は3割半ばとなっています。



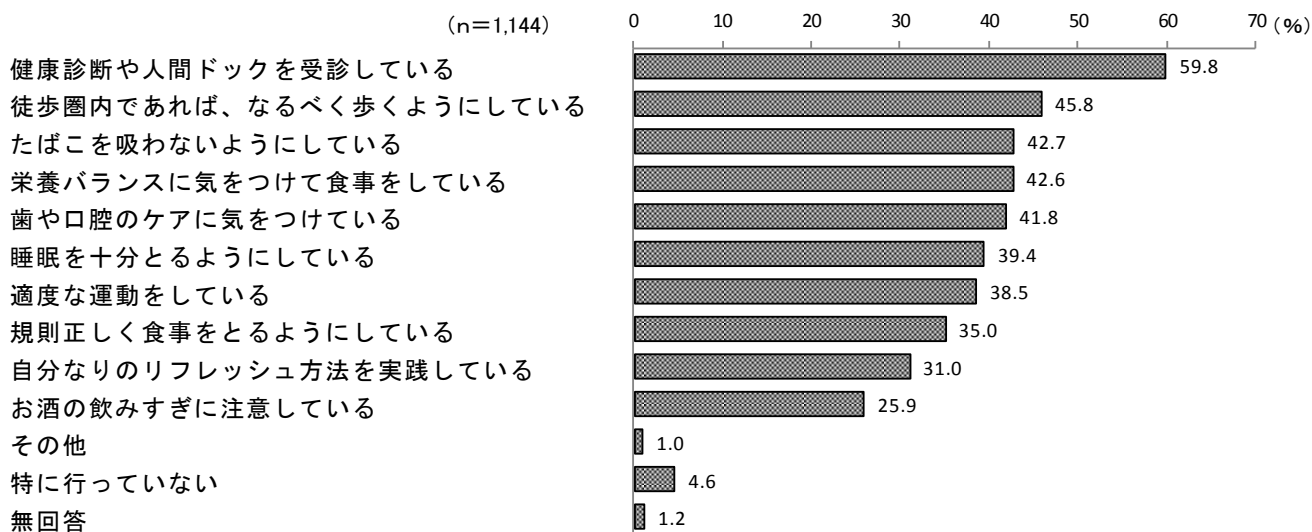
(1-1) 「いたばし健康づくりプロジェクト」をどのような方法で知ったか (問13-1)

「いたばし健康づくりプロジェクト」をどのような方法で知ったか聞いたところ、「広報いたばし」(54.2%)が5割半ばとなっています。「区内に設置されている掲示板」(9.8%)、「区の刊行物」(9.0%)が約1割となっています。



(2) 健康のために普段から行っていること (問14)

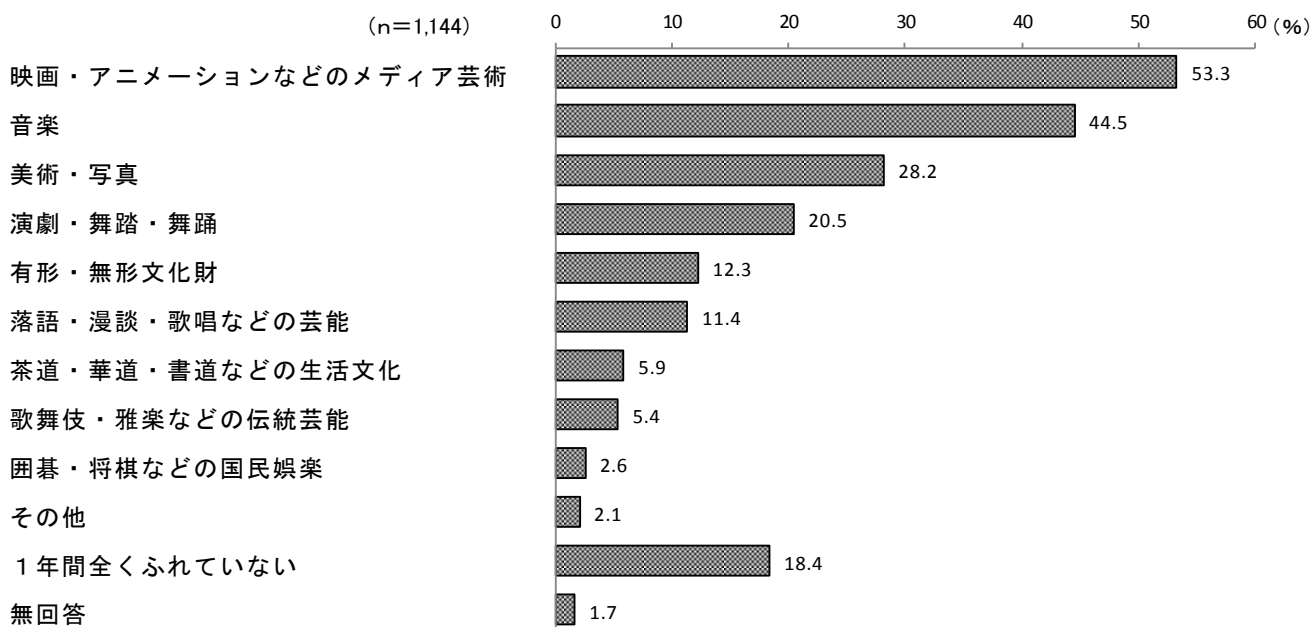
健康のために普段から行っていることを選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「健康診断や人間ドックを受診している」(59.8%)が約6割となっています。次いで「徒歩圏内であれば、なるべく歩くようにしている」(45.8%)、「たばこを吸わないようにしている」(42.7%)、「栄養バランスに気をつけて食事をしている」(42.6%)、「歯や口腔のケアに気をつけている」(41.8%)が4割台となっています。



7. 「心躍るスポーツ・文化」について

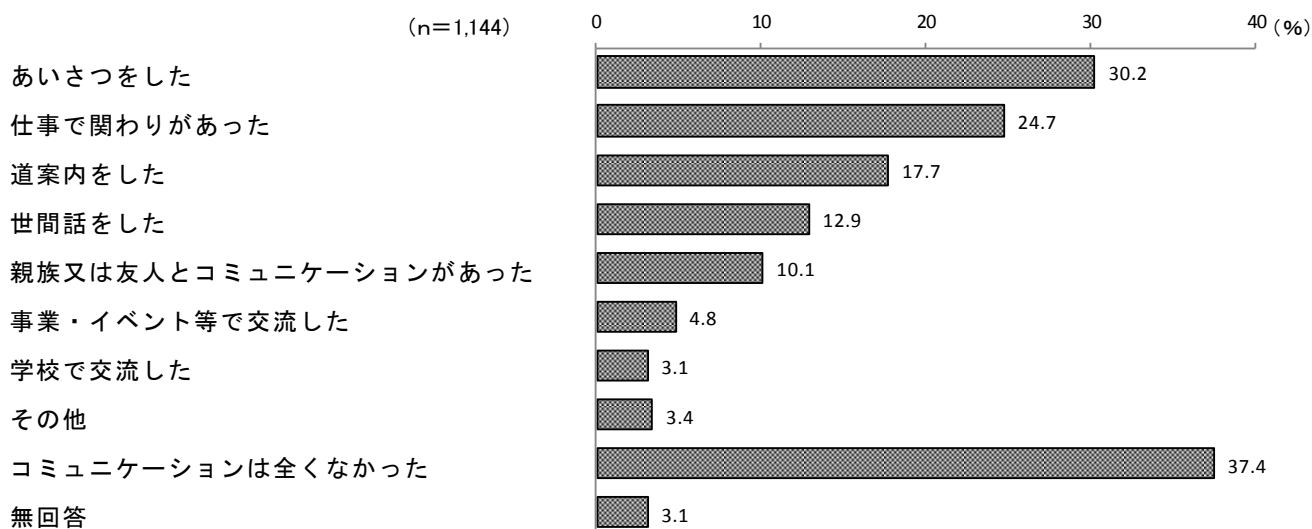
(1) 過去1年間に鑑賞・体験活動した文化芸術 (問15)

過去1年の間に鑑賞した、あるいは実際に体験活動した文化芸術を選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「映画・アニメーションなどのメディア芸術」(53.3%)が5割前半となっています。次いで「音楽」(44.5%)が4割半ば、「美術・写真」(28.2%)、「演劇・舞踏・舞踊」(20.5%)が2割台となっています。一方、「1年間全くふれていない」(18.4%)は1割後半となっています。



(2) 過去1年間での外国人とのコミュニケーション (問16)

過去1年間における、外国人とのコミュニケーション(あいさつや世間話、道案内等)について、選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「あいさつをした」(30.2%)が約3割で最も高く、次いで「仕事で関わりがあった」(24.7%)が2割半ば、「道案内をした」(17.7%)、「世間話をした」(12.9%)、「親族又は友人とコミュニケーションがあった」(10.1%)が1割台となっています。一方、「コミュニケーションは全くなかった」(37.4%)が3割後半となっています。



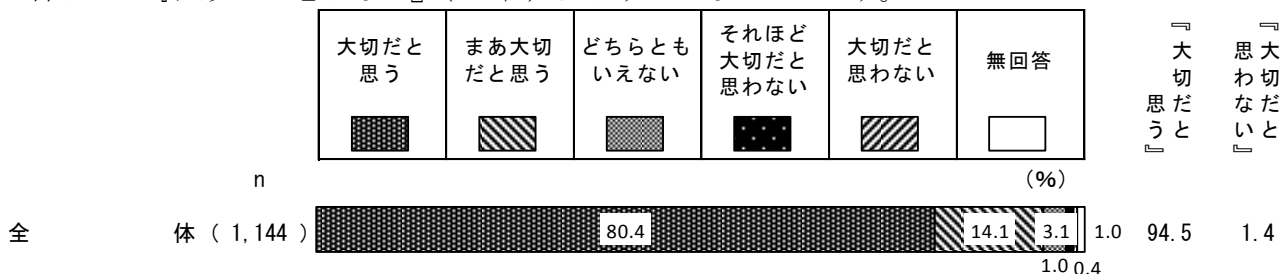
(3) 運動・スポーツの頻度 (問 17)

運動・スポーツを行う頻度を聞いたところ、「週に1回～2回程度」(27.6%)、「週に3回以上」(23.5%)が2割台、「月に1回～2回程度」(15.2%)が1割台となっています。一方、「行っていない」(26.1%)は2割半ばとなっています。



(4) 戦争体験の語り継ぎ (問 18)

戦争体験を語り継ぐことについてどう思うかを聞いたところ、「大切だと思う」(80.4%)が約8割となっており、「まあ大切だと思う」(14.1%)を合わせた『大切だと思う』(94.5%)は9割半ばとなっています。一方、「それほど大切だと思わない」(1.0%)と「大切だと思わない」(0.4%)を合わせた『大切だと思わない』(1.4%)はわずかとなっています。



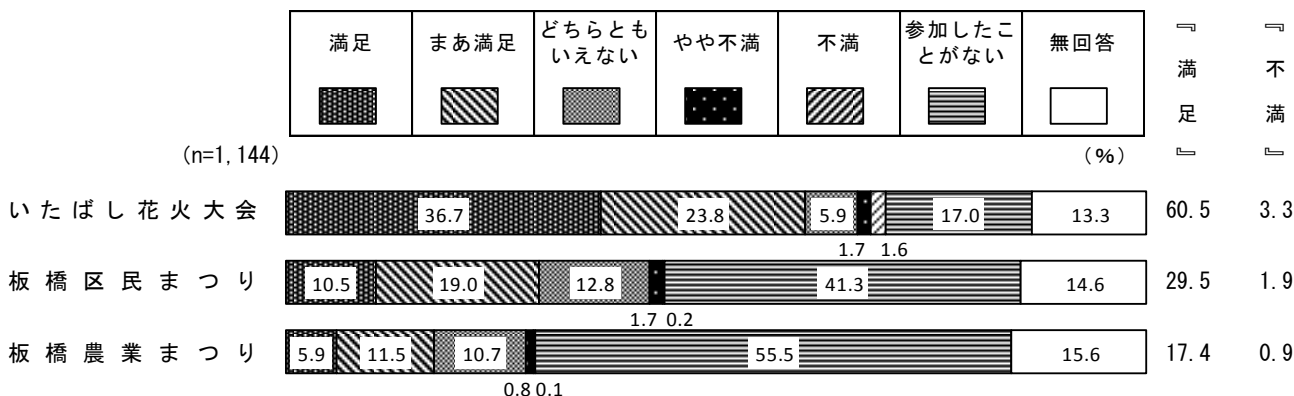
8. 「光輝く板橋ブランド・産業活力」について

(1) いたばし花火大会・板橋区民まつり・板橋農業まつりに対する満足度 (問 19)

いたばし花火大会の満足度を聞いたところ、「満足」(36.7%)は3割半ばで、これに「まあ満足」(23.8%)を合わせた『満足』(60.5%)は約6割となっています。一方、「やや不満」(1.7%)、「不満」(1.6%)を合わせた『不満』(3.3%)はわずかとなっています。また、「参加したことがない」(17.0%)は1割後半となっています。

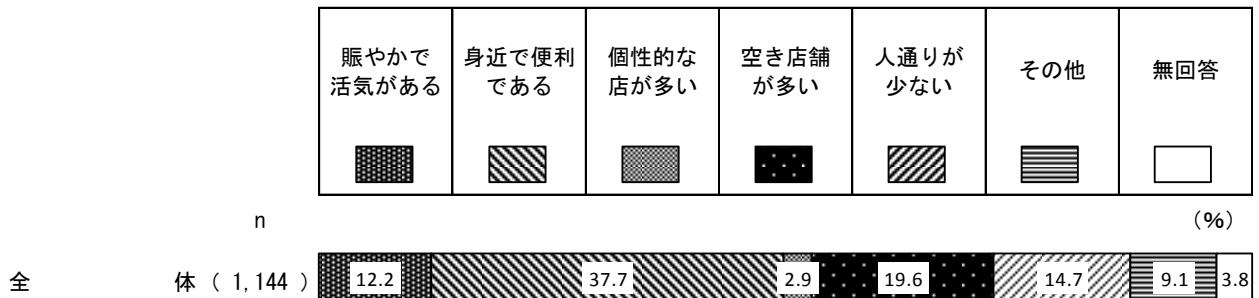
板橋区民まつりの満足度については「満足」(10.5%)は約1割で、これに「まあ満足」(19.0%)を合わせた『満足』(29.5%)は約3割となっています。一方、「やや不満」(1.7%)、「不満」(0.2%)を合わせた『不満』(1.9%)はわずかとなっています。また、「参加したことがない」(41.3%)は約4割となっています。

板橋農業まつりの満足度については「満足」(5.9%)は1割未満で、これに「まあ満足」(11.5%)を合わせた『満足』(17.4%)は1割後半となっています。一方、「やや不満」(0.8%)、「不満」(0.1%)を合わせた『不満』(0.9%)はわずかとなっています。また、「参加したことがない」(55.5%)は5割半ばとなっています。



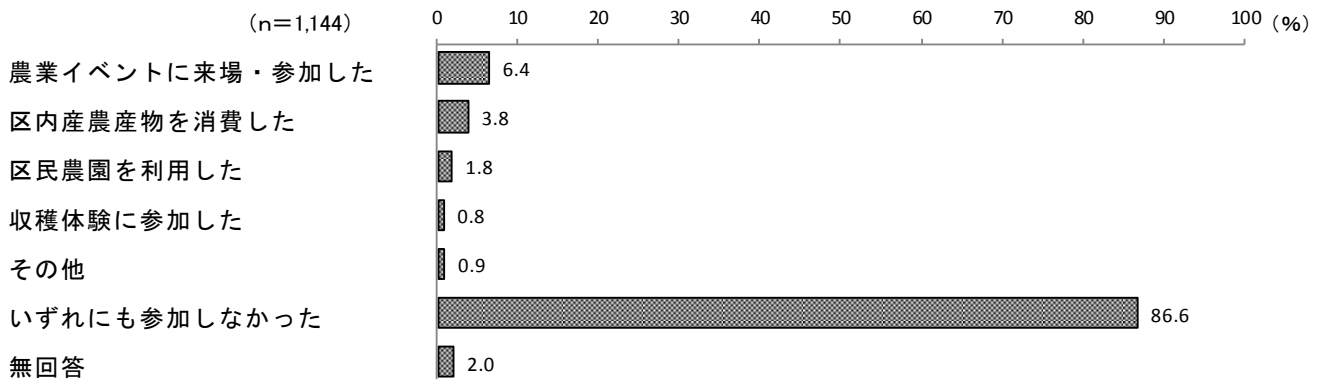
(2) 身近な商店街に対する印象 (問 20)

区内の身近な商店街に対する印象を聞いたところ、「身近で便利である」(37.7%)が3割後半となっています。次いで「空き店舗が多い」(19.6%)、「人通りが少ない」(14.7%)、「賑やかで活気がある」(12.2%)が1割台となっています。



(3) 過去1年間に農業にふれた機会 (問 21)

過去1年の間に区内の農業にふれる機会(板橋農業まつり参加、区内産農産物消費、区民農園利用、収穫体験参加等)があったか選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「いずれにも参加しなかった」(86.6%)が8割半ばとなっています。一方、何らかの区内の農業にふれる機会があったと答えた方は、それぞれ1割未満となっています。

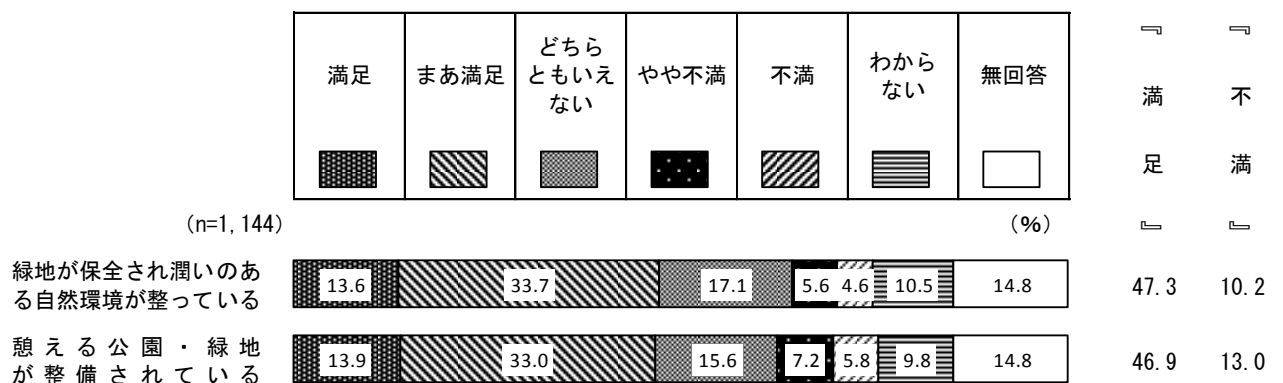


9. 「緑と環境共生」について

(1) 自然環境・公園に対する満足度 (問 22)

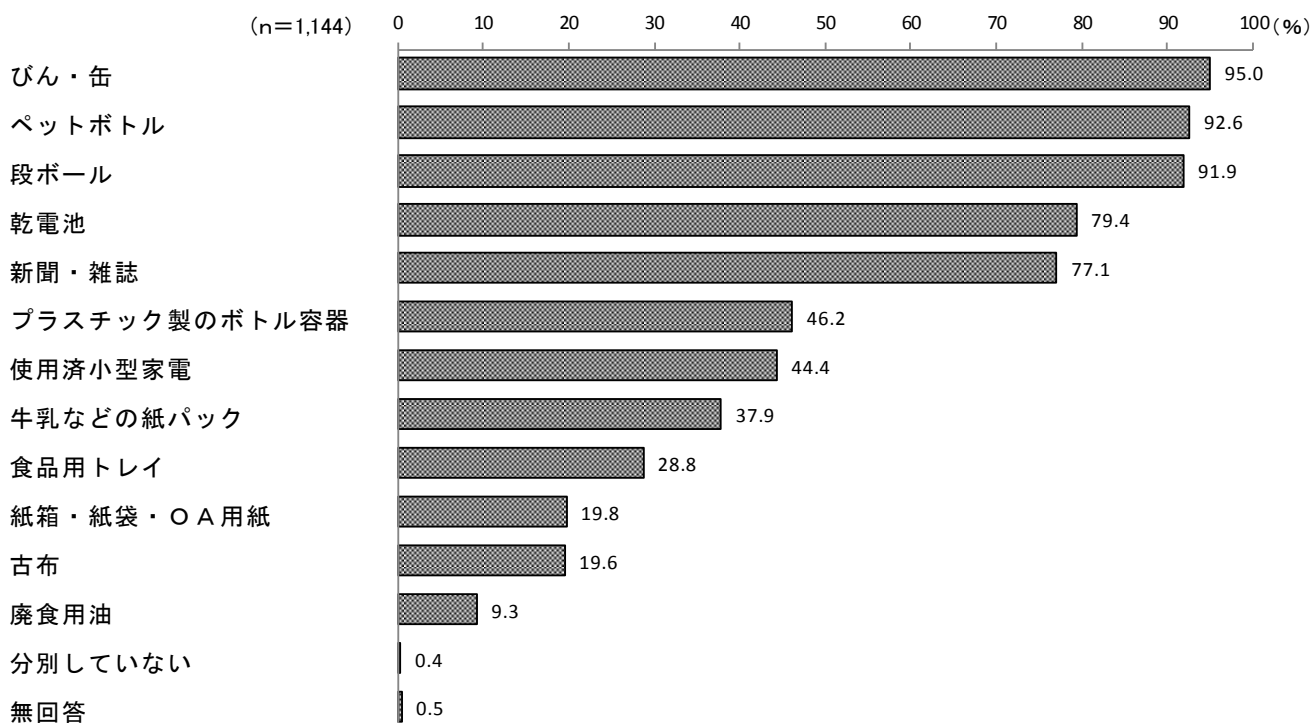
緑地が保全され潤いのある自然環境が整っていることに対する満足度を聞いたところ、「満足」(13.6%)と「まあ満足」(33.7%)を合わせた『満足』(47.3%)が4割後半となっています。一方、「やや不満」(5.6%)、「不満」(4.6%)を合わせた『不満』(10.2%)は約1割となっています。

憩える公園・緑地が整備されていることに対する満足度については、『満足』(46.9%)が4割半ば、『不満』(13.0%)が1割前半となっています。



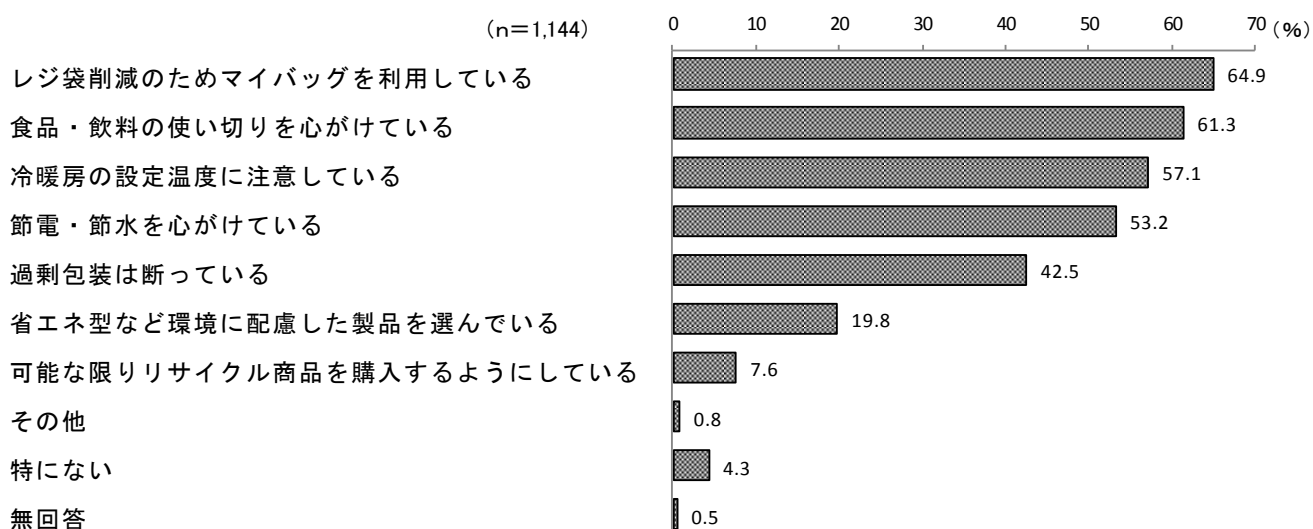
(2) 資源としてごみと分別しているもの (問 23)

資源としてごみと分別しているものを選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「びん・缶」(95.0%)、「ペットボトル」(92.6%)、「段ボール」(91.9%)が9割台となっています。次いで「乾電池」(79.4%)、「新聞・雑誌」(77.1%)が7割台となっています。一方、「分別していない」(0.4%)は1割未満となっています。



(3) 環境のために取り組んでいること (問 24)

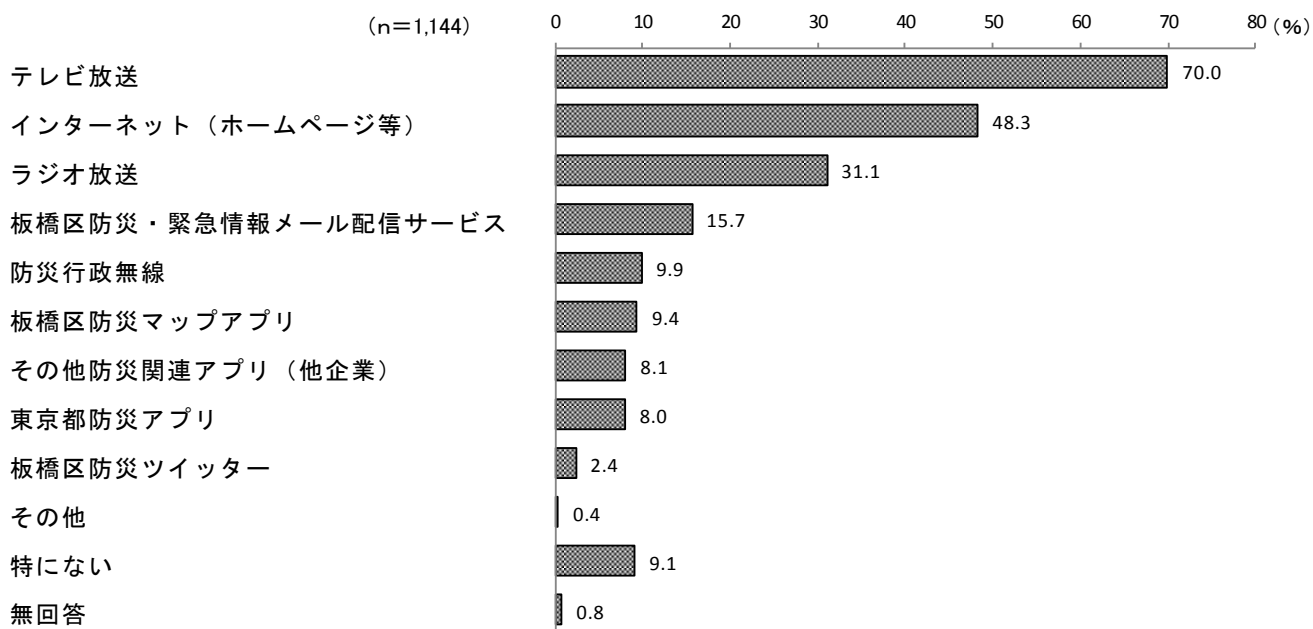
環境のために取り組んでいることを選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「レジ袋削減のためマイバッグを利用している」(64.9%)、「食品・飲料の使い切りを心がけている」(61.3%)が6割台、「冷暖房の設定温度に注意している」(57.1%)、「節電・節水を心がけている」(53.2%)が5割台となっています。一方、「特にない」(4.3%)は1割未満となっています。



10. 「万全な備えの安心・安全」について

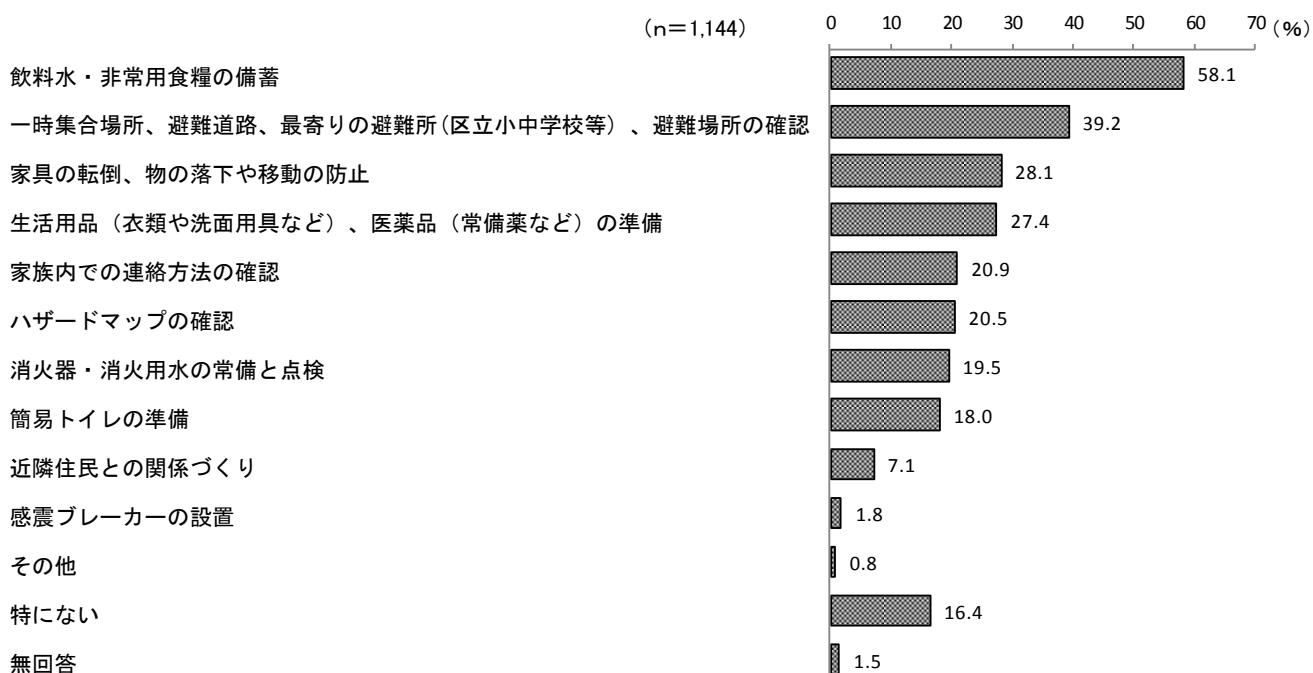
(1) 災害情報を収集するための手段 (問 25)

災害情報を収集するための手段について選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「テレビ放送」(70.0%)が7割となっています。次いで「インターネット(ホームページ等)」(48.3%)、「ラジオ放送」(31.1%)、「板橋区防災・緊急情報メール配信サービス」(15.7%)、「防災行政無線」(9.9%)となっています。一方、「特にない」(9.1%)は約1割となっています。



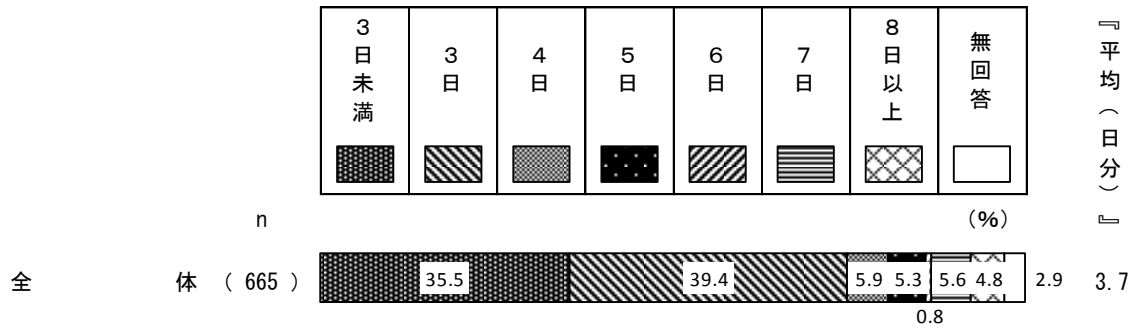
(2) 災害に備えた家庭内での対策 (問 26)

災害に備えた家庭内での対策を選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「飲料水・非常用食糧の備蓄」(58.1%)が5割後半となっています。次いで「一時集合場所、避難道路、最寄りの避難所(区立小中学校等)、避難場所の確認」(39.2%)、「家具の転倒、物の落下や移動の防止」(28.1%)、「生活用品(衣類や洗面用具など)、医薬品(常備薬など)の準備」(27.4%)、「家族内での連絡方法の確認」(20.9%)となっています。一方、「特にない」(16.4%)は1割半ばとなっています。



(2-1) 飲料水・非常用食糧の備蓄日数 (問 26-1)

飲料水・非常用食糧を備蓄していると答えた人(665人)に、およそ何日分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」(39.4%)が約4割、「3日未満」(35.5%)が3割半ばとなっています。平均では3.7日分となっています。



(3) お住まいの地域の治安 (問 27)

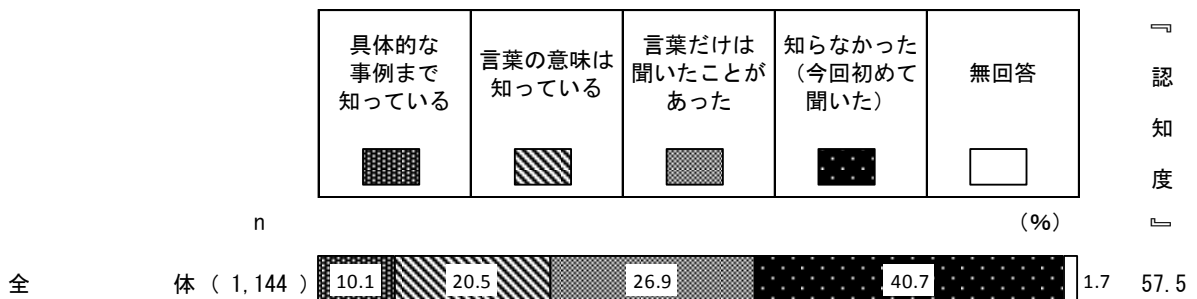
お住まいの地域の治安が保たれていると感じるかを聞いたところ、「感じる」(18.4%)が1割後半となり、これに「まあ感じる」(44.4%)を合わせた『感じる』(62.8%)は6割前半となっています。一方、「あまり感じない」(8.7%)、「感じない」(4.6%)を合わせた『感じない』(13.3%)は1割前半となっています。



11. 「快適で魅力あるまち」について

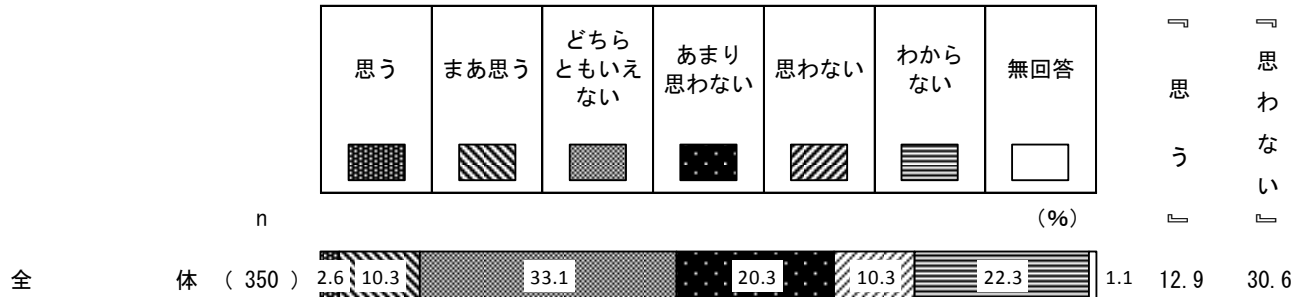
(1) 「ユニバーサルデザイン」の認知度 (問 28)

ユニバーサルデザインをどの程度知っているかを聞いたところ、「具体的な事例まで知っている」(10.1%)、「言葉の意味は知っている」(20.5%)、「言葉だけは聞いたことがあった」(26.9%)を合わせた『認知度』(57.5%)は5割後半となっています。一方、「知らなかった(今回初めて聞いた)」(40.7%)は約4割となっています。



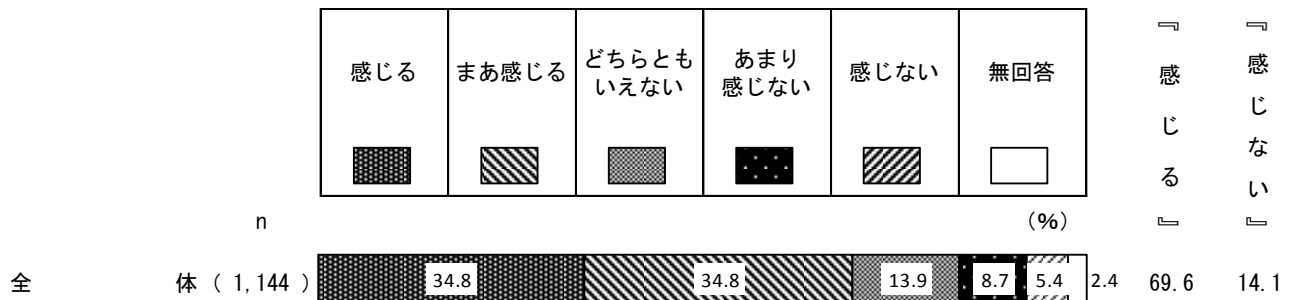
(1-1) 取り組みの進捗状況 (問 28-1)

ユニバーサルデザインの取り組みが進んでいると思うかを聞いたところ、「思う」(2.6%)と「まあ思う」(10.3%)を合わせた『思う』(12.9%)は1割前半となっています。一方、「あまり思わない」(20.3%)と「思わない」(10.3%)を合わせた『思わない』(30.6%)は約3割となっています。また、「どちらともいえない」(33.1%)は3割前半、「わからない」(22.3%)は2割前半となっています。



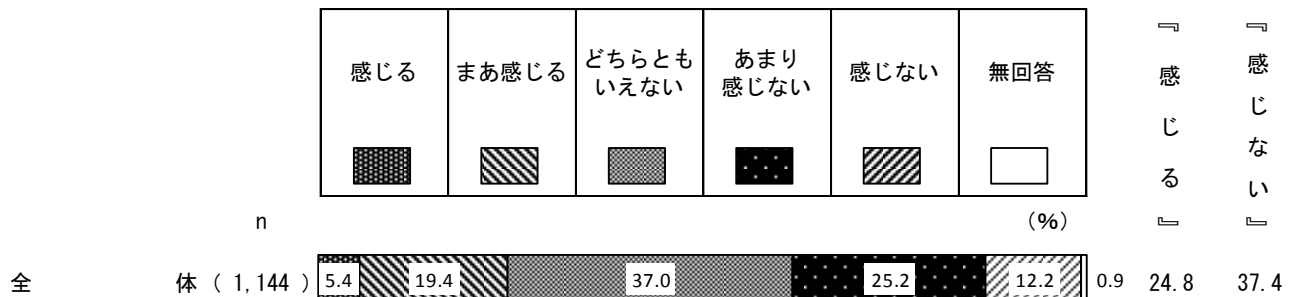
(2) 電車やバスの利用しやすさ (問 29)

板橋区内において電車やバスが利用しやすいと感じているかを聞いたところ、「感じる」(34.8%)が3割半ばとなり、「まあ感じる」(34.8%)と合わせた『感じる』(69.6%)が約7割となっています。一方、「あまり感じない」(8.7%)と「感じない」(5.4%)を合わせた『感じない』(14.1%)は1割半ばとなっています。また、「どちらともいえない」(13.9%)は1割前半となっています。



(3) 建築物等とまちなみとの調和 (問 30)

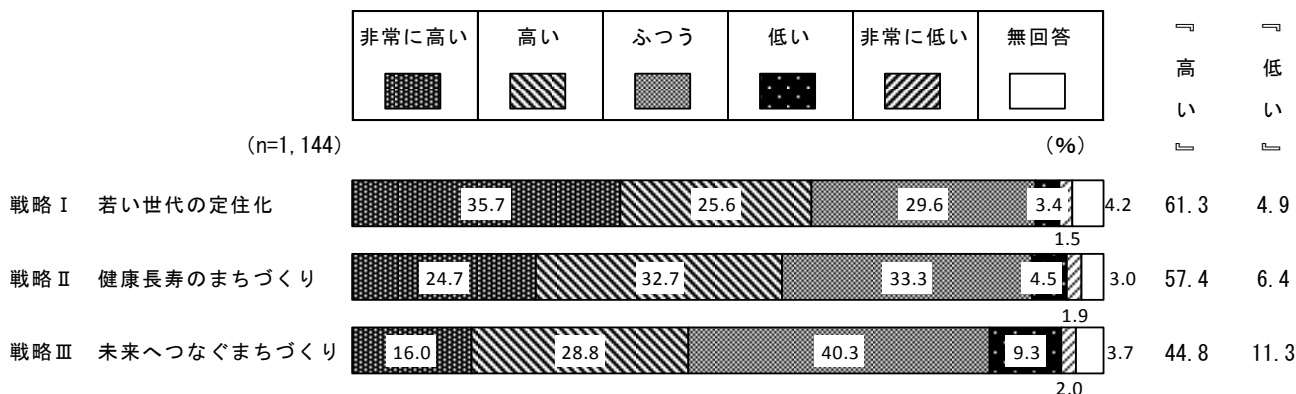
建築物等(建物の色や形、屋外広告物、公園や緑地など)が区のまちなみと調和して美しいと感じるかを聞いたところ、「感じる」(5.4%)と「まあ感じる」(19.4%)を合わせた『感じる』(24.8%)は2割半ばとなっています。一方、「あまり感じない」(25.2%)と「感じない」(12.2%)を合わせた『感じない』(37.4%)は3割後半となっています。「どちらともいえない」(37.0%)は3割後半となっています。



12. 「未来創造戦略」について

(1) 未来創造戦略の重要度 (問 31)

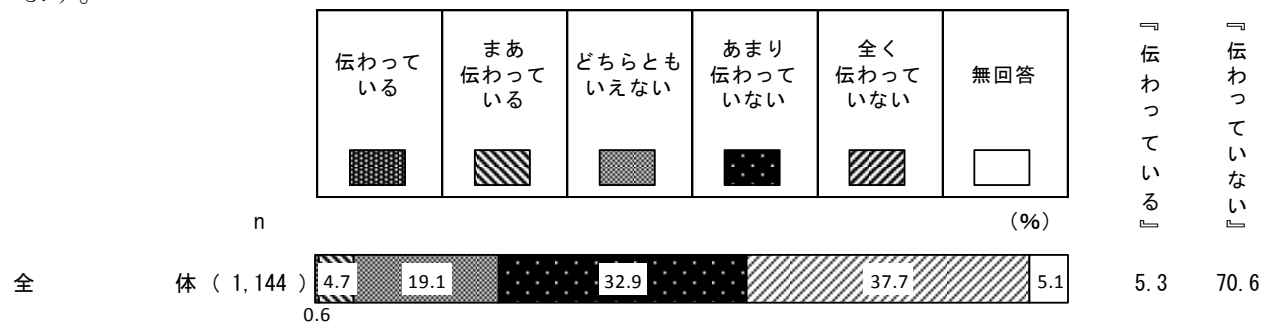
板橋区の掲げる未来創造戦略の重要度を聞いたところ、(戦略Ⅰ)若い世代の定住化は、「非常に高い」(35.7%)と「高い」(25.6%)を合わせた『高い』(61.3%)は約6割と3つの戦略の中で最も高くなっています。次いで(戦略Ⅱ)健康長寿のまちづくりの『高い』(57.4%)が5割後半、(戦略Ⅲ)未来へつなぐまちづくりの『高い』(44.8%)が4割半ばとなっています。一方、「低い」と「非常に低い」を合わせた『低い』は(戦略Ⅲ)未来へつなぐまちづくり(11.3%)で約1割となっています。



13. 「シティプロモーション(区の魅力情報の発信)」について

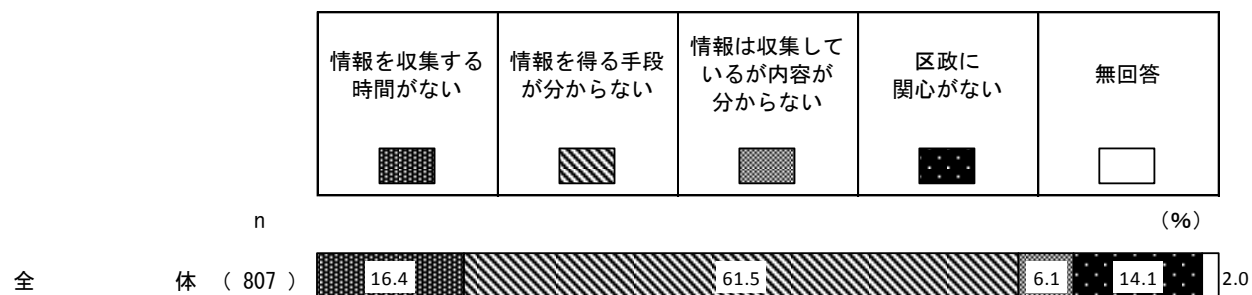
(1) 区が発信する情報の伝達度 (問 32)

区からの情報が十分に伝わっていると思うかを聞いたところ、「伝わっている」(0.6%)と「まあ伝わっている」(4.7%)を合わせた『伝わっている』(5.3%)は1割未満となっています。一方、「あまり伝わっていない」(32.9%)と「全く伝わっていない」(37.7%)を合わせた『伝わっていない』(70.6%)は約7割となっています。また、「どちらともいえない」(19.1%)は約2割となっています。



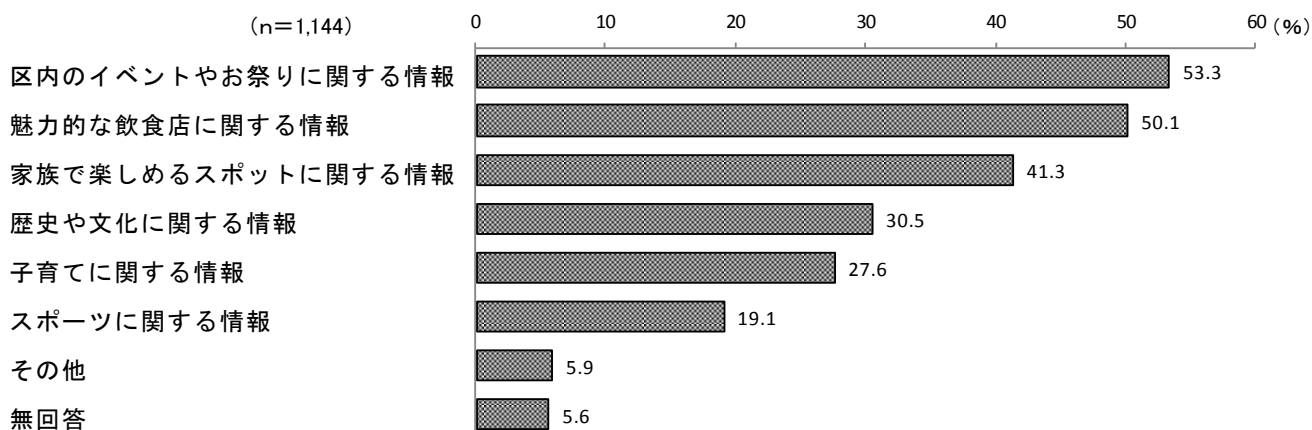
(1-1) 情報が伝わっていない理由 (問 32-1)

伝わっていないと回答された人(807人)に区からの情報が伝わっていないと思う主な理由を聞いたところ、「情報を得る手段が分からない」(61.5%)が約6割となっています。次いで「情報を収集する時間がない」(16.4%)、「区政に関心がない」(14.1%)が1割台となっています。



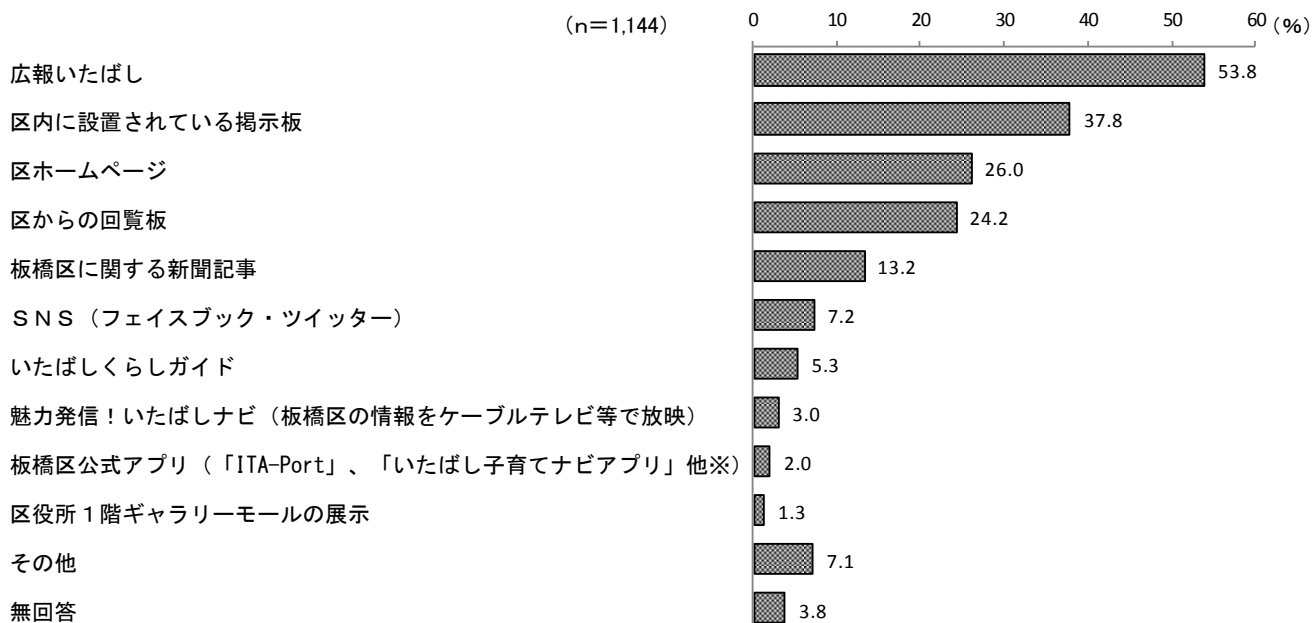
(2) 期待する区の魅力発信（問 33）

今後、どのような区の魅力発信を期待しているかを3つまで聞いたところ、「区内のイベントやお祭りに関する情報」(53.3%)、「魅力的な飲食店に関する情報」(50.1%)が5割台となっています。次いで「家族で楽しめるスポットに関する情報」(41.3%)、「歴史や文化に関する情報」(30.5%)、「子育てに関する情報」(27.6%)となっています。



(3) 区に関する情報の入手方法（問 34）

板橋区に関する情報の取得先を選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「広報いたばし」(53.8%)が5割前半となっています。次いで「区内に設置されている掲示板」(37.8%)、「区ホームページ」(26.0%)、「区からの回覧板」(24.2%)、「板橋区に関する新聞記事」(13.2%)となっています。

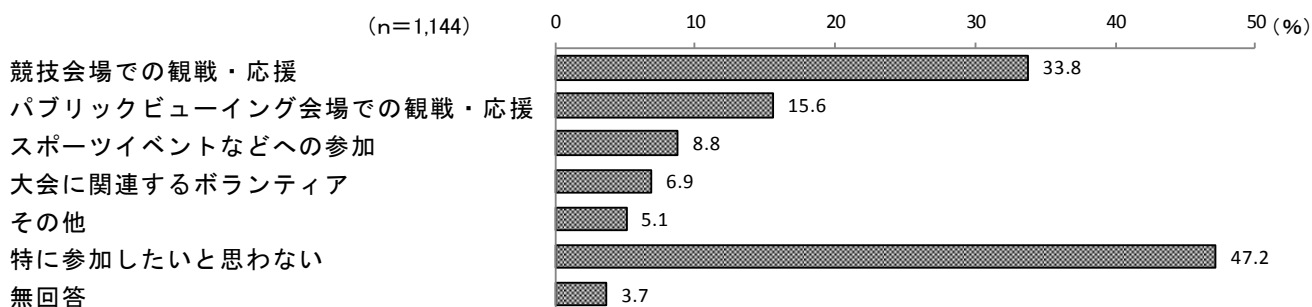


※「板橋区防災アプリ」、「ITA-マニア」

14. 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」について

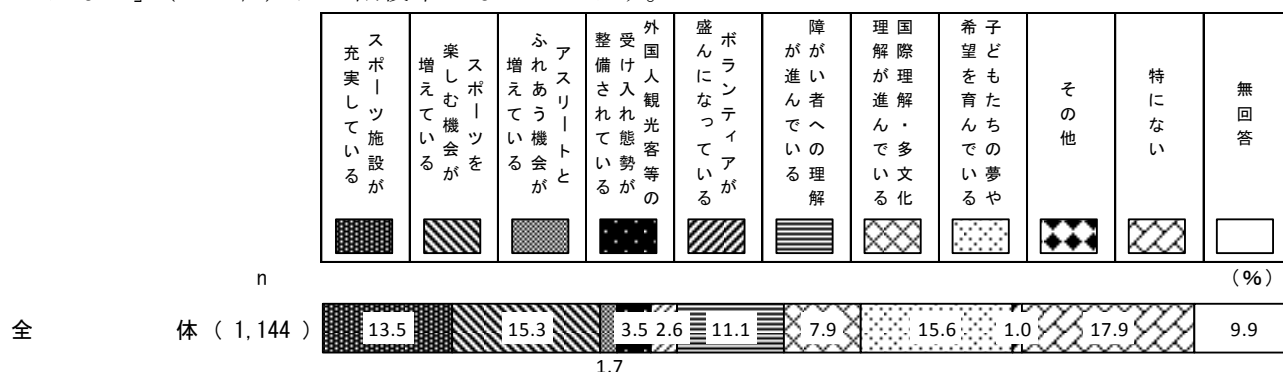
(1) 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」の参加方法（関わり方）（問 35）

東京 2020 大会にどのような形で参加したい（関わりたい）か選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「競技会場での観戦・応援」（33.8%）が3割前半となっています。次いで「パブリックビューイング会場での観戦・応援」（15.6%）、「スポーツイベントなどへの参加」（8.8%）、「大会に関連するボランティア」（6.9%）となっています。一方、「特に参加したいと思わない」（47.2%）が4割後半となっています。



(2) レガシー（遺産）として期待すること（問 36）

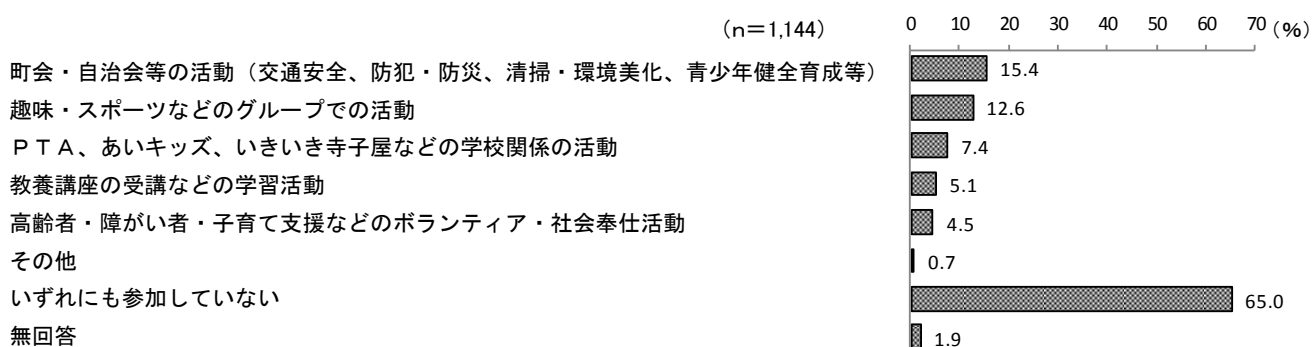
東京 2020 大会終了後、区内のレガシー（遺産）として最も期待するものを聞いたところ、「子どもたちの夢や希望を育てている」（15.6%）、「スポーツを楽しむ機会が増えている」（15.3%）が1割半ばとなっています。次いで「スポーツ施設が充実している」（13.5%）、「障がい者への理解が進んでいる」（11.1%）、「国際理解・多文化理解が進んでいる」（7.9%）となっています。一方、「特にない」（17.9%）は1割後半となっています。



15. 社会活動・地域活動等

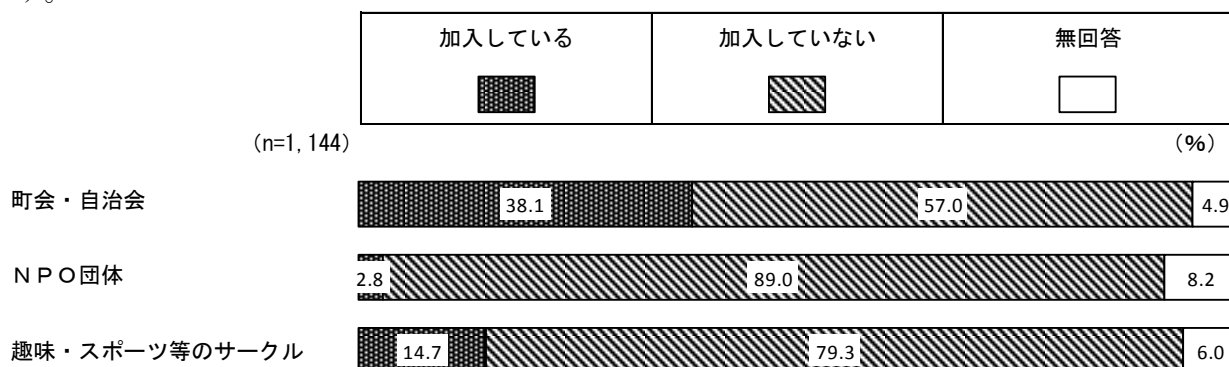
(1) 社会活動・地域活動等への参加状況（問 37）

過去1年間の社会活動・地域活動等への参加状況を選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「町会・自治会等の活動（交通安全、防犯・防災、清掃・環境美化、青少年健全育成等）」（15.4%）と「趣味・スポーツなどのグループでの活動」（12.6%）が1割台となっています。一方、「いずれにも参加していない」（65.0%）は6割半ばとなっています。



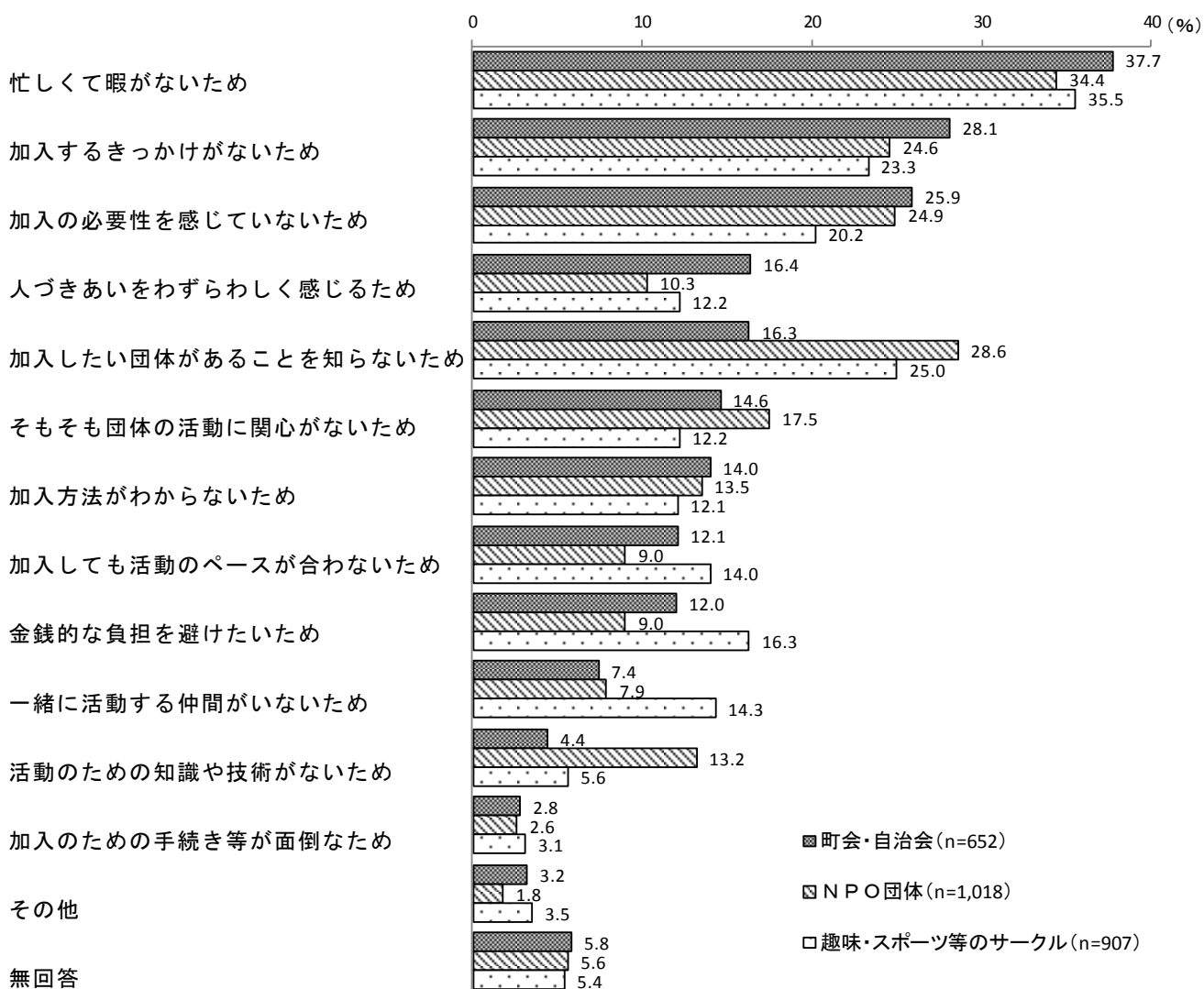
(2) 地域で活動する団体・サークルへの加入状況 (問 38)

現在、地域で活動する団体やサークルへ加入しているかを聞いたところ、「加入している」は町会・自治会 (38.1%) が3割後半、趣味・スポーツ等のサークル (14.7%) が1割半ば、となっています。



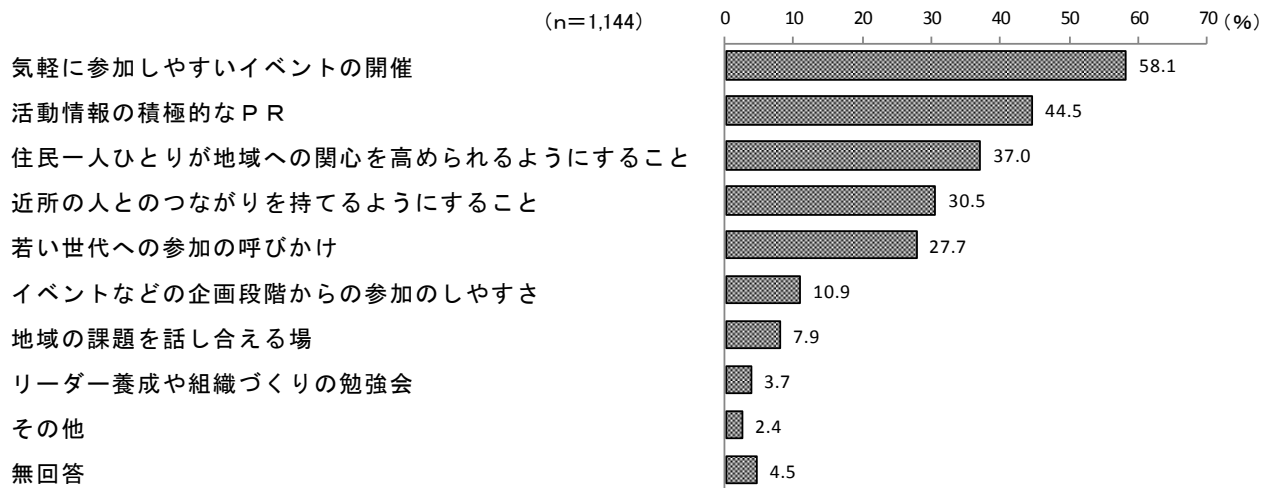
(2-2) 地域で活動する団体・サークルに加入していない理由 (問 38)

問 38 で、地域で活動する団体やサークルそれぞれに「加入していない」と答えた人に、その理由を3つまで聞いたところ、「忙しくて暇がないため」が町会・自治会 (37.7%)、NPO団体 (34.4%)、趣味・スポーツ等のサークル (35.5%) でそれぞれ3割台となっています。



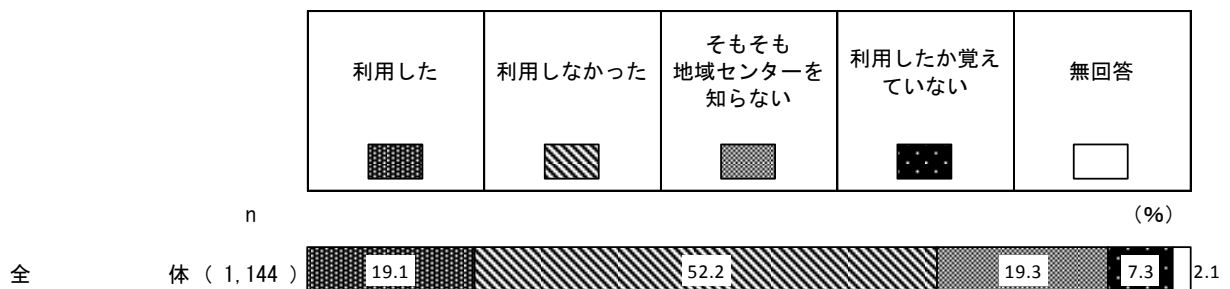
(3) 地域の活動を活発にするために必要なこと (問 39)

地域の活動を活発にするために必要なことを3つまで聞いたところ、「気軽に参加しやすいイベントの開催」(58.1%)が5割後半で最も高く、次いで「活動情報の積極的なPR」(44.5%)、「住民一人ひとりが地域への関心を高められるようにすること」(37.0%)、「近所の人とのつながりを持てるようにすること」(30.5%)、「若い世代への参加の呼びかけ」(27.7%)となっています。



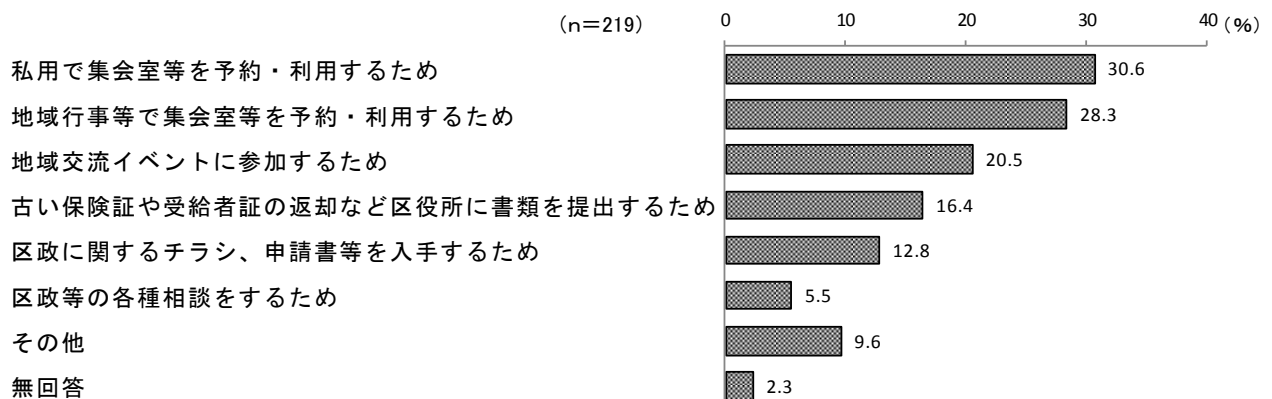
(4) 過去1年間における地域センターの利用状況 (問 40)

過去1年間における地域センターの利用状況を聞いたところ、「利用した」(19.1%)は約2割となっています。一方、「利用しなかった」(52.2%)は5割前半、「そもそも地域センターを知らない」(19.3%)は約2割となっています。



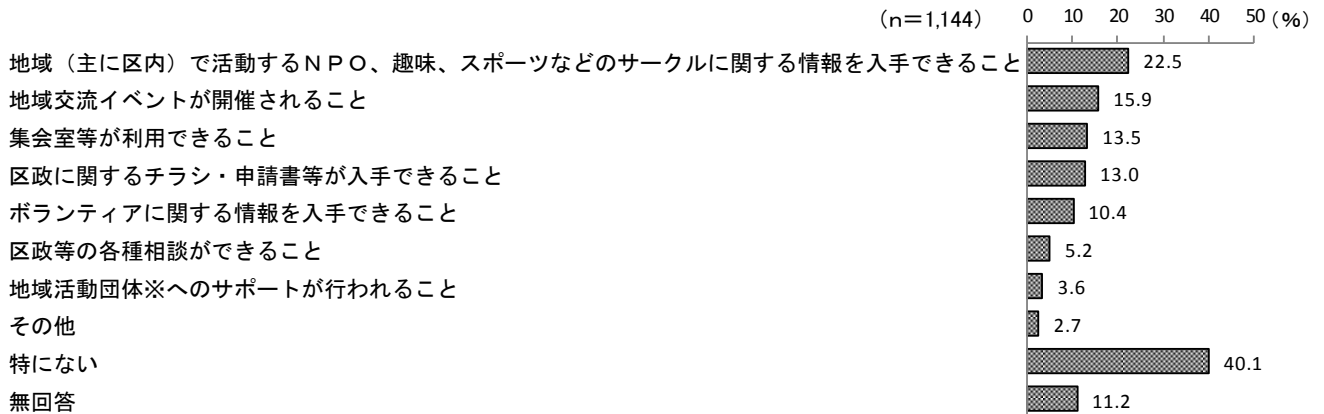
(4-1) 地域センターの利用目的 (問 40-1)

過去1年間に地域センターを利用したと答えた人(219人)に、地域センターを利用した目的を選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「私用に集会室等を予約・利用するため」(30.6%)が約3割で最も高く、次いで「地域行事等で集会室等を予約・利用するため」(28.3%)、「地域交流イベントに参加するため」(20.5%)、「古い保険証や受給者証の返却など区役所に書類を提出するため」(16.4%)、「区政に関するチラシ、申請書等を入手するため」(12.8%)となっています。



(5) 地域センターに求めるサービス (問 41)

地域センターに求めるサービスを選択肢の中から該当するものを全て選んでもらったところ、「地域（主に区内）で活動する NPO、趣味、スポーツなどのサークルに関する情報を入手できること」（22.5%）が2割前半で最も高く、次いで「地域交流イベントが開催されること」（15.9%）、「集会室等が利用できること」（13.5%）、「区政に関するチラシ・申請書等が入手できること」（13.0%）となっています。一方、「特にない」（40.1%）が約4割となっています。



16. 今後の行政サービスと負担のあり方

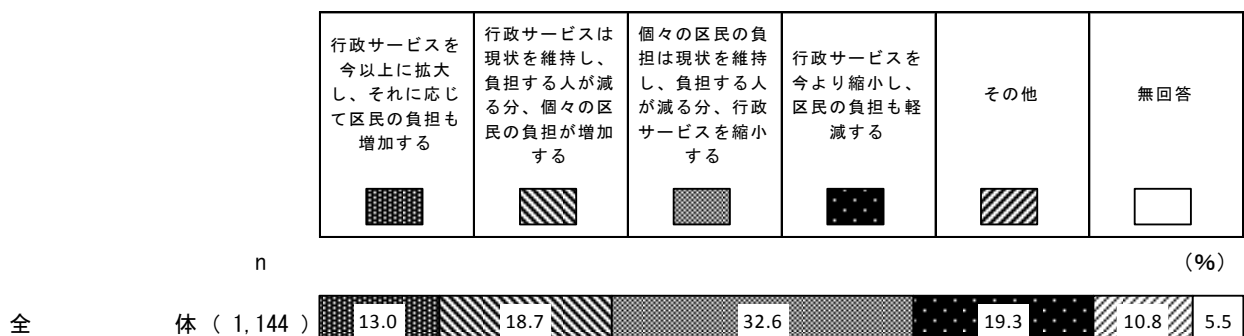
(1) 税金に見合った行政サービスの提供 (問 42)

日頃の行政サービスについて、税金に見合ったサービスが受けられていると感じられるかを聞いたところ、「感じられる」（5.4%）と「まあ感じられる」（19.0%）を合わせた『感じられる』（24.4%）は2割半ばとなっています。一方、「あまり感じられない」（33.3%）と「感じられない」（19.7%）を合わせた『感じられない』（53.0%）が5割前半となっています。



(2) 将来的な行政サービスと住民負担のバランス (問 43)

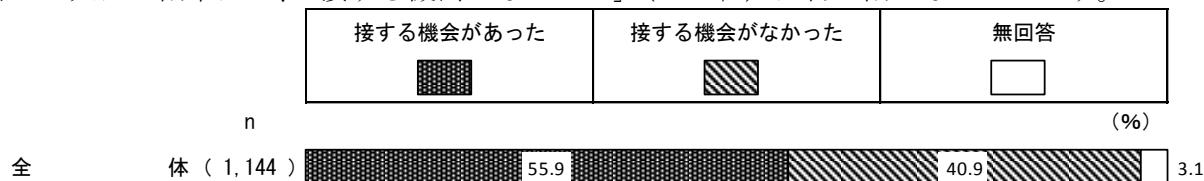
区役所などの行政サービスと住民負担のバランスとして、どのような形がふさわしいと考えるかを聞いたところ、「個々の区民の負担は現状を維持し、負担する人が減る分、行政サービスを縮小する」（32.6%）が3割前半で最も高くなっています。次いで、「行政サービスを今より縮小し、区民の負担も軽減する」（19.3%）、「行政サービスは現状を維持し、負担する人が減る分、個々の区民の負担が増加する」（18.7%）、「行政サービスは現状を維持し、負担する人が減る分、行政サービスを縮小する」（13.0%）となっています。



17. 板橋区職員に期待する能力・資質

(1) 最近1年間での職員と接する機会の有無 (問 44)

過去1年間で職員と接する機会があったかを聞いたところ、「接する機会があった」(55.9%)と答えた人は5割半ばで、「接する機会がなかった」(40.9%)は約4割となっています。



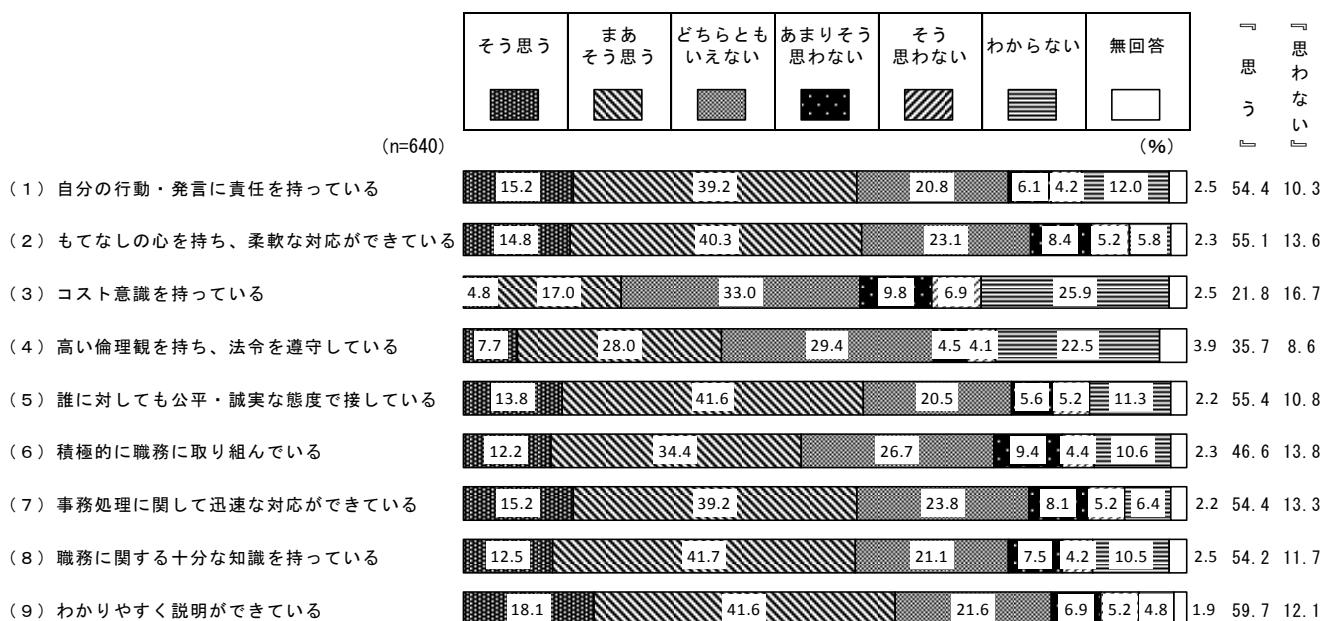
(1-1) 職員の対応に対する満足度 (問 44-1)

問 44 で、過去1年間で、区役所の窓口(電話含む)を利用したり、地域活動やイベント等で職員と「接する機会があった」と答えた人(640人)に、その際の職員の対応に関する満足度を聞いたところ、「満足」(23.1%)と「まあ満足」(41.6%)を合わせた『満足』(64.7%)が6割半ばとなっています。「やや不満」(8.0%)と「不満」(3.8%)を合わせた『不満』(11.8%)は約1割となっています。



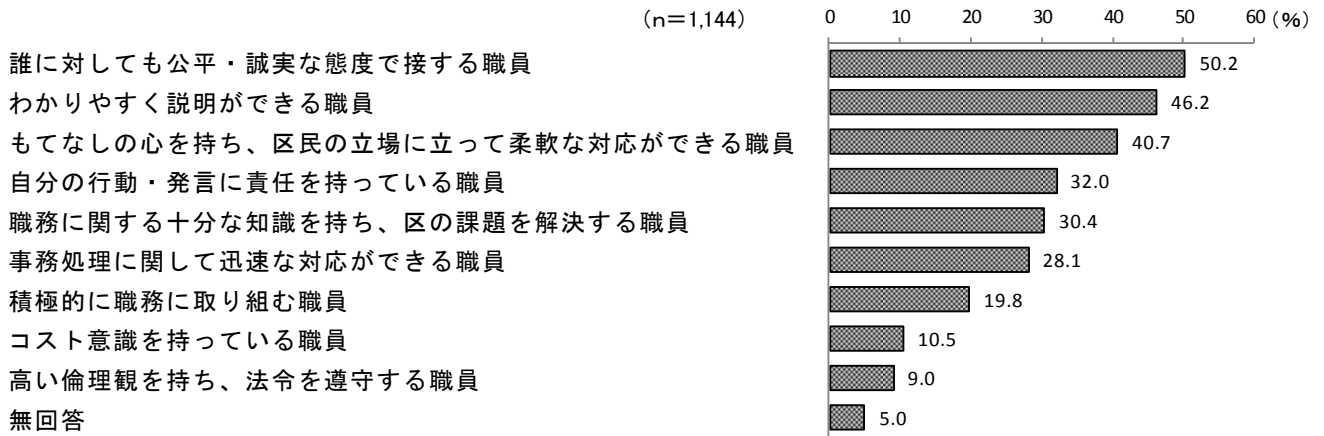
(1-2) 職員の能力・資質の現状評価 (問 44-2)

問 44 で、過去1年間で、区役所の窓口(電話含む)を利用したり、地域活動やイベント等で職員と「接する機会があった」と答えた人(640人)に、板橋区職員の能力・資質について、現在の状況をどのように思うか、9項目に分けて聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『思う』の割合は、(9) わかりやすく説明ができています(59.7%)が約6割で、このほかにも5項目で5割台となっています。一方、(4) 高い倫理観を持ち、法令を遵守している(35.7%)が3割半ば、(3) コスト意識を持っている(21.8%)が約2割にとどまっています。ただし、この2項目はいずれも「わからない」が2割台となっています。また、「あまりそう思わない」と「思わない」を合わせた『思わない』は(4) 高い倫理観を持ち、法令を遵守している(8.6%)を除く、すべての項目で1割台となっています。



(2) 職員に求める姿 (問 45)

特に求める板橋区職員の姿を3つまで聞いたところ、「誰に対しても公平・誠実な態度で接する職員」(50.2%)が約5割で最も高く、次いで「わかりやすく説明ができる職員」(46.2%)、「もてなしの心を持ち、区民の立場に立って柔軟な対応ができる職員」(40.7%)が4割台となっています。



18. その他

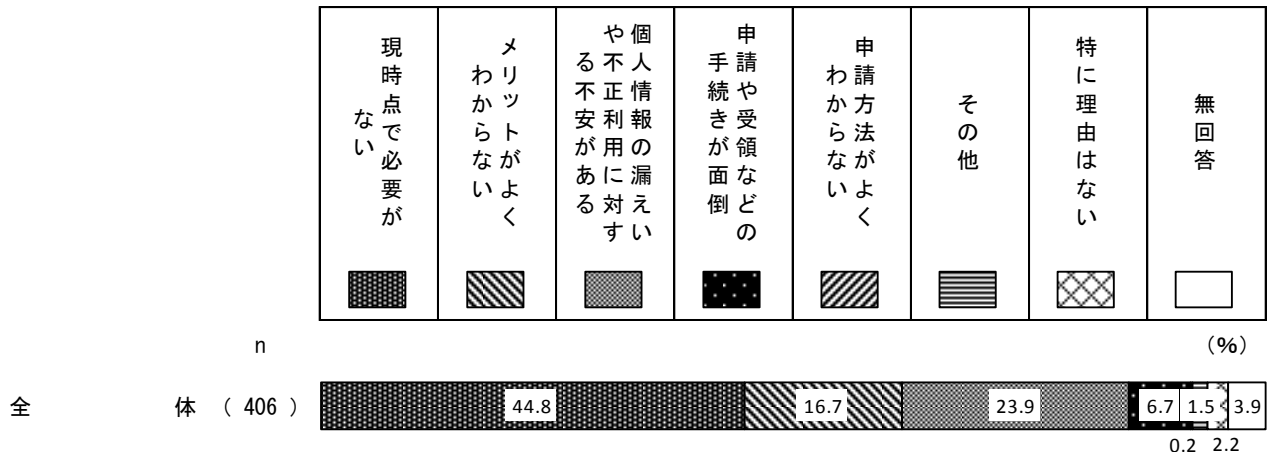
(1) 「マイナンバー (個人番号) カード」の取得状況 (問 46)

「マイナンバー (個人番号) カード」の取得状況について聞いたところ、「すでに持っている」(33.0%)は3割前半となっています。「まだ持っていないが、取得予定である」(19.8%)と合わせると将来的には5割を超える方が取得することになります。一方、「取得する予定はない」(35.5%)が3割半ばとなっています。



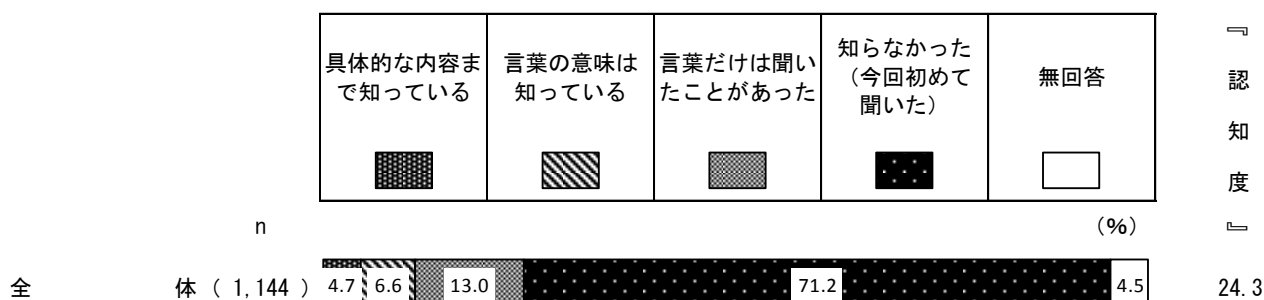
(1-1) 取得していない理由 (問 46-1)

「マイナンバー (個人番号) カード」を取得する予定はない理由を聞いたところ、「現時点で必要がない」(44.8%)が4割半ばとなっています。次いで、「個人情報の漏えいや不正利用に対する不安がある」(23.9%)、「メリットがよくわからない」(16.7%)となっています。



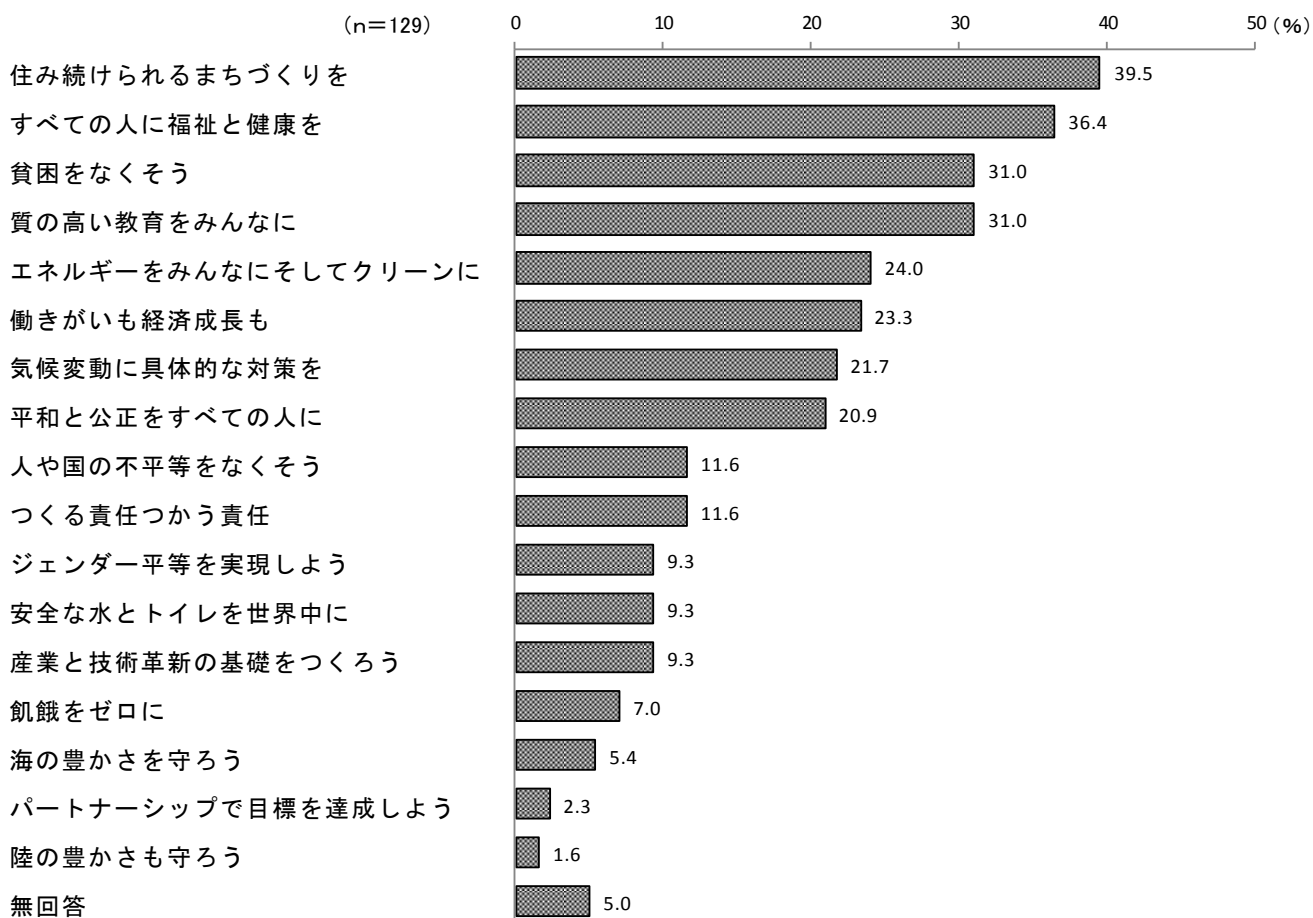
(2) SDGsの認知度 (問47)

SDGsの認知度について聞いたところ、「知らなかった (今回初めて聞いた)」(71.2%) が約7割で最も高くなっています。「具体的な内容まで知っている」(4.7%)、「言葉の意味は知っている」(6.6%)、「言葉だけは聞いたことがあった」(13.0%)を合わせた『認知度』(24.3%)は2割半ばとなっています。



(2-1) SDGsで重点的に取り組むべきもの (問47-1)

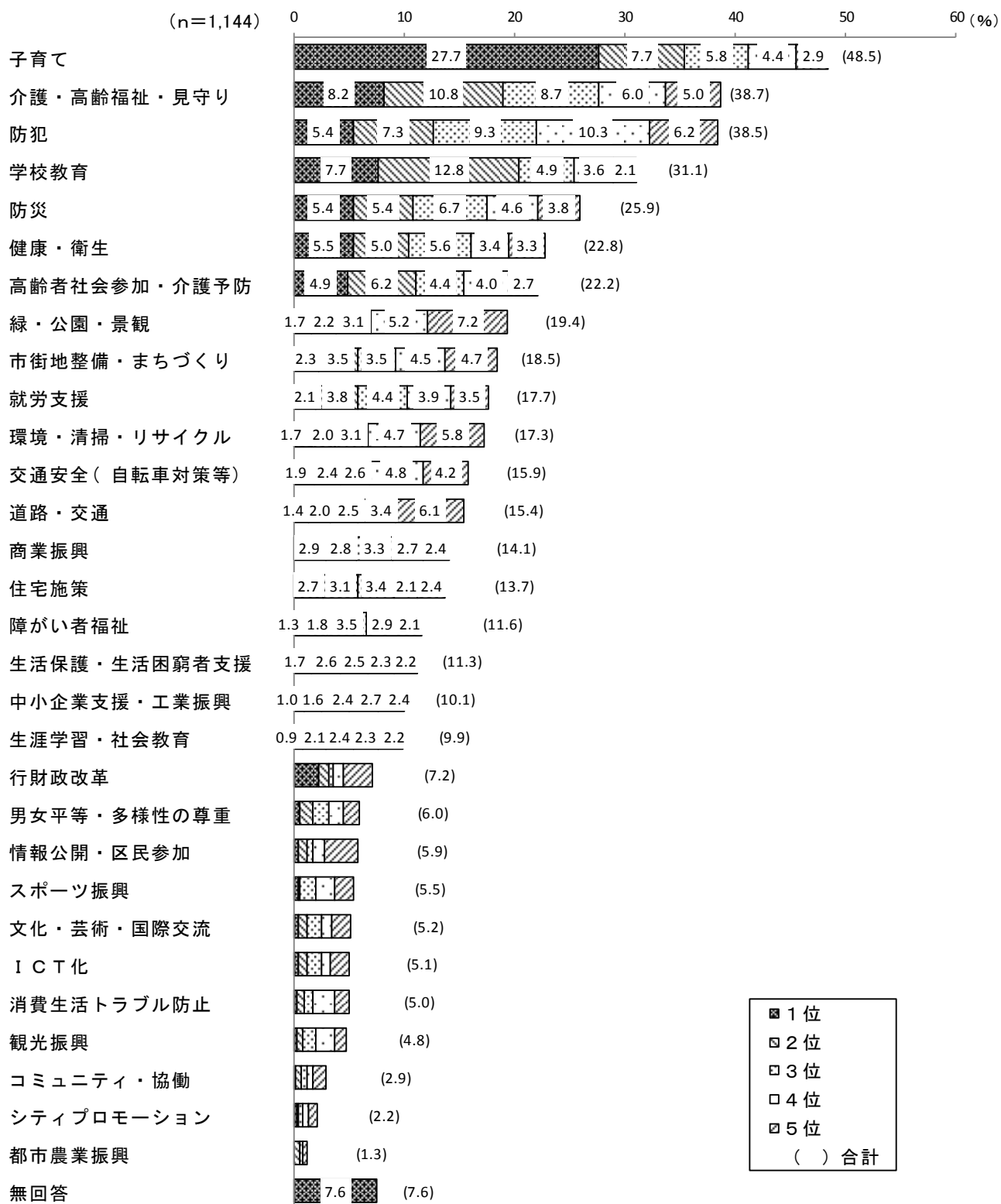
SDGsの「具体的な内容まで知っている」「言葉の意味は知っている」と答えた人(129人)に、区がSDGsの17の国際目標の中で重点的に取り組むべきものを3つまで聞いたところ、「住み続けられるまちづくりを」(39.5%)が約4割で最も高くなっています。次いで、「すべての人に福祉と健康を」(36.4%)、「貧困をなくそう」(31.0%)、「質の高い教育をみんなに」(31.0%)となっています。



(3) 板橋区発展のために力を入れるべき分野（問 48）

今後、区が重点的に力を入れるべきだと思う分野を、重要だと思う順に5つまで聞いたところ、第1位から第5位までの合計の割合では、「子育て」（48.5%）が4割後半で最も高く、次いで「介護・高齢福祉・見守り」（38.7%）、「防犯」（38.5%）、「学校教育」（31.1%）などとなっています。

また、第1位の割合では、「子育て」（27.7%）が2割後半で最も高く、次いで「介護・高齢者福祉・見守り」（8.2%）、「学校教育」（7.7%）、「健康・衛生」（5.5%）、「防犯」（5.4%）、「防災」（5.4%）などとなっています。

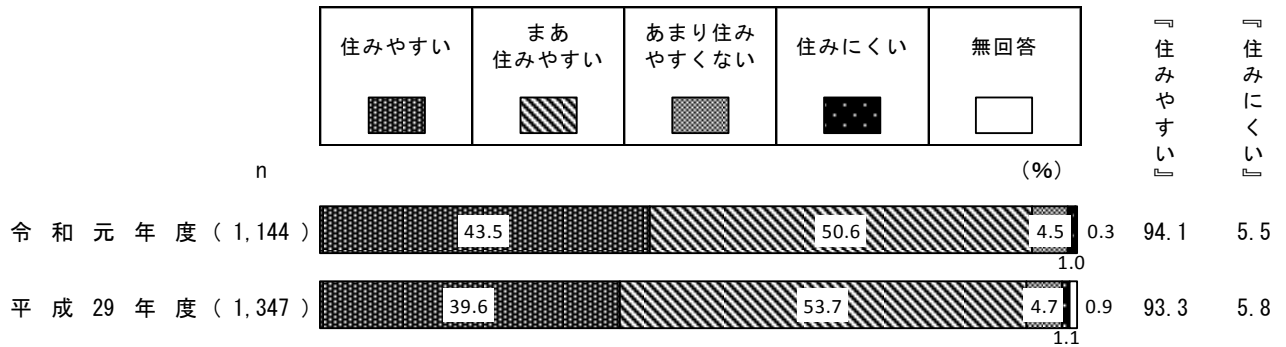


第3章 前回調査との比較

(1) 区での住み心地

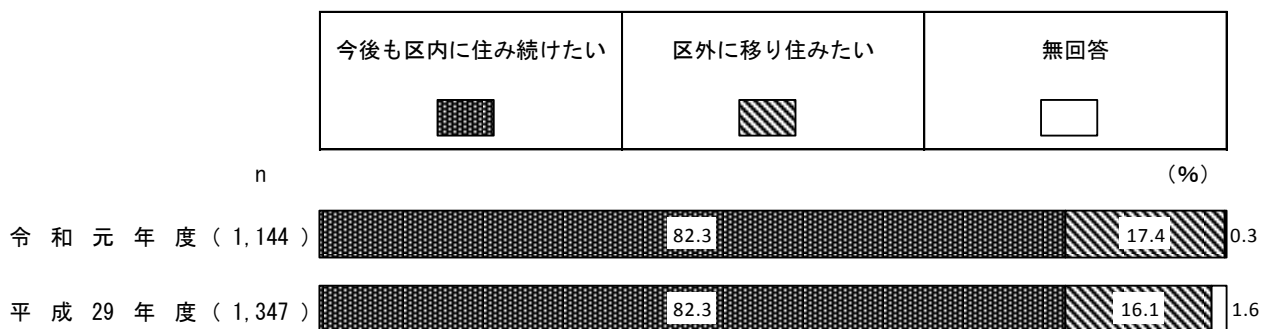
① 住みやすさ

板橋区の住みやすさについて、平成29年度と比較して大きな変化はありませんが、「住みやすい」は、平成29年度から3.9ポイント増加し、「まあ住みやすい」が3.1ポイント減少しています。



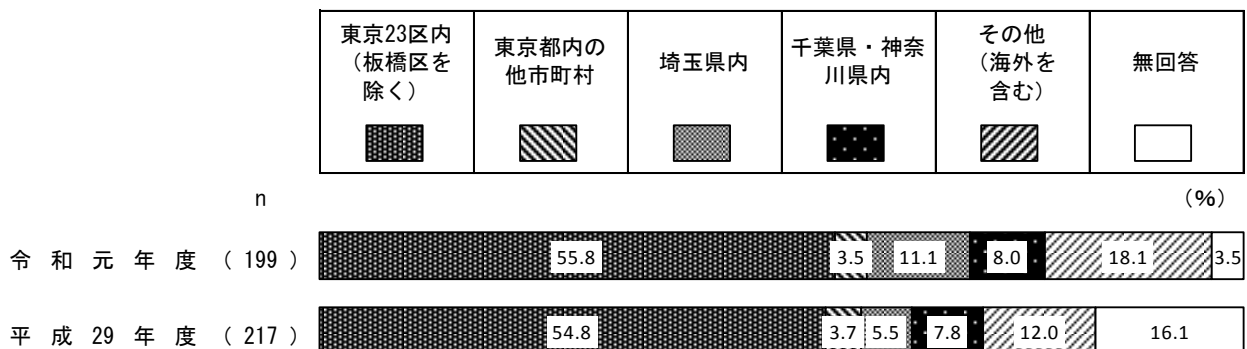
② 定住意向

板橋区の定住意向について、平成29年度と比較して、大きな変化はありませんでした。



③ 区外に移り住むとしたら住みたい地域

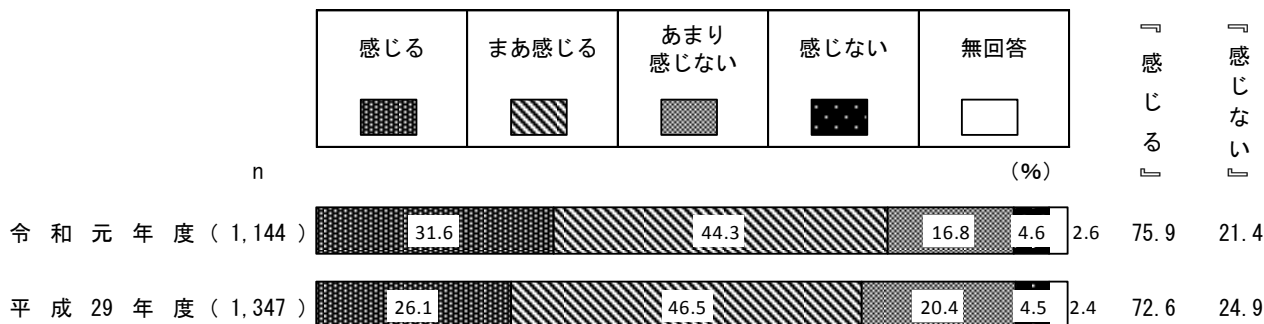
区外に移り住むとしたら住みたい地域について、「埼玉県内」は、平成29年度から5.6ポイント、「その他（海外を含む）」が6.1ポイント増加しています。



④ 板橋区に対する「愛着」と「誇り」

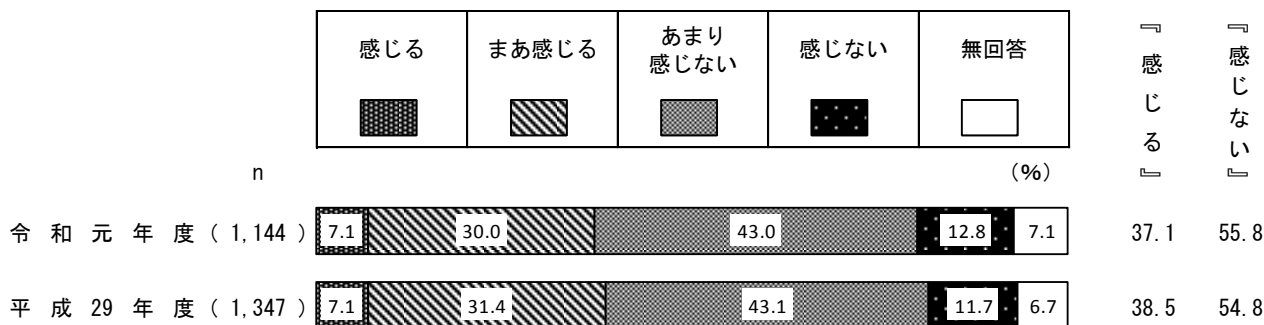
【愛着】

板橋区に対して愛着を感じるかについて、平成 29 年度と比較したところ、「感じる」と「まあ感じる」を合わせた『感じる』が 3.3 ポイント増加し、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』が 3.5 ポイント減少しています。



【誇り】

板橋区に対して誇りを感じるかについて、平成 29 年度と比較したところ、「感じる」と「まあ感じる」を合わせた『感じる』が 1.4 ポイント減少し、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』が 1.0 ポイント増加しています。



(2) 行政サービスで重点的に力を入れるべき分野

今後、区が重点的に力を入れるべき分野について、重要だと思う順に 5 つまで聞いたところ、第 1 位から第 5 位までの合計の割合では、平成 29 年度と比較すると「子育て」が 1 位を維持し、「介護・高齢福祉・見守り」は 2 つ順位を上げ 2 位に、「防犯」、「学校教育」が 1 つ順位を下げ 3 位と 4 位となっています。また、防災が平成 29 年度の 7 位から 2 つ順位を上げて 5 位になっています。

| | | (%) | | | | |
|-------|-------|-------------|-------------------------|--------------|-------------------------|--------------------------|
| | n | 第 1 位 | 第 2 位 | 第 3 位 | 第 4 位 | 第 5 位 |
| 令和元年 | 1,144 | 子育て 48.4 | 介護・高齢福祉・ 見守り 38.8 | 防犯 38.5 | 学校教育 31.0 | 防災 26.0 |
| 平成29年 | 1,347 | 子育て 49.2 | 防犯 35.8 | 学校教育 35.6 | 介護・高齢福祉・ 見守り 33.7 | 高齢者社会参加・ 介護予防 25.0 |

令和元年度板橋区区民意識意向調査報告書（概要版）

企画・実施 板橋区政策経営部政策企画課

〒173-8501 板橋区板橋二丁目 66 番 1 号

TEL 03-3579-2011 FAX 03-3579-4211

sk-schousei@city.itabashi.tokyo.jp

集計・分析 株式会社タイム・エージェント

〒150-0044 渋谷区円山町 6 番 8 号 松木家ビル

TEL 03-3370-6821 FAX 03-3770-6820

令和 2 年 3 月発行

刊行物番号 31-103